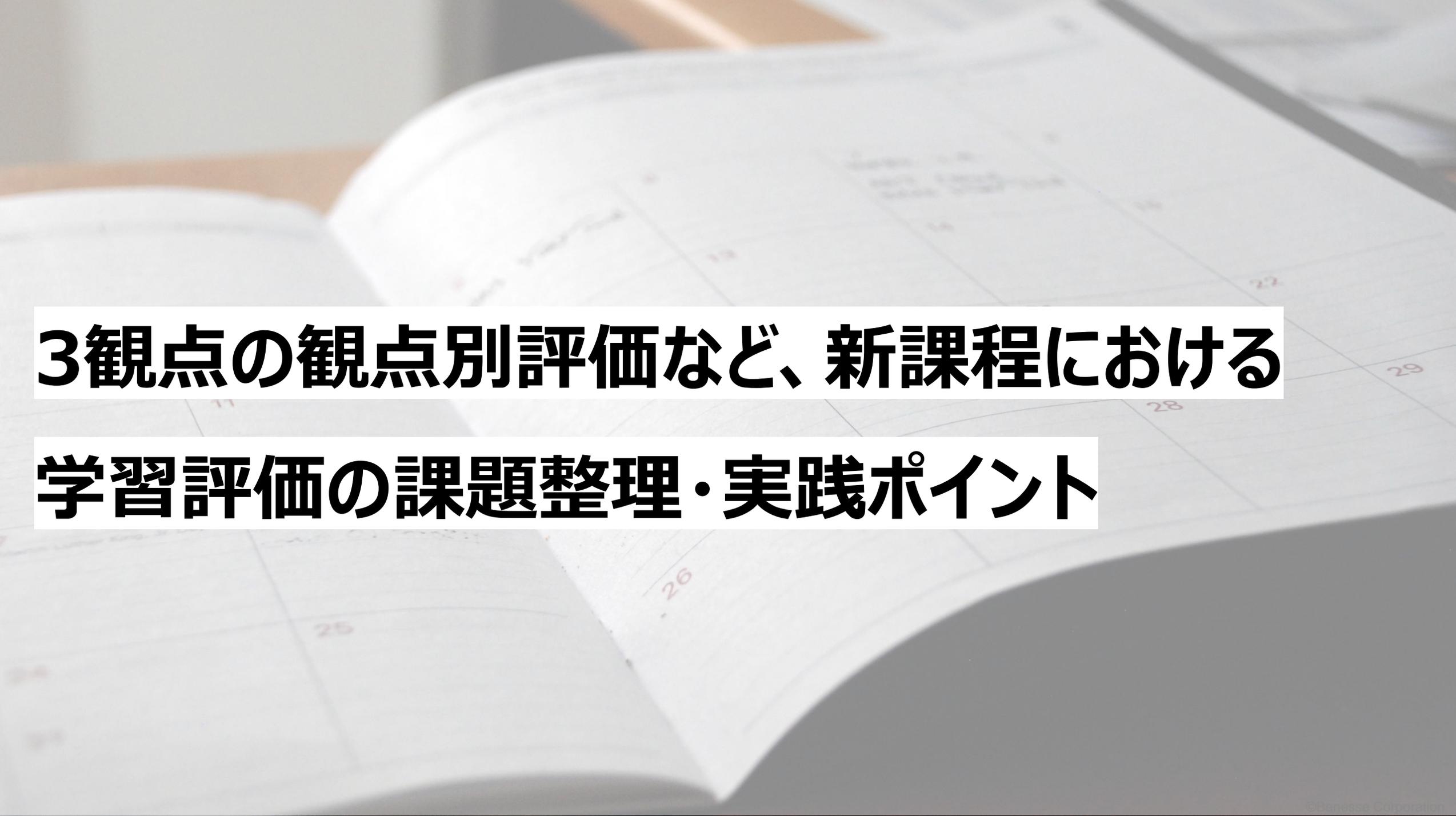


-学び続ける生徒の育成に向けて-
新課程における教育実践と深化

先進校の実践から考える観点別評価の実践と見通し
新課程入試・進路指導の現状とこれから



3観点の観点別評価など、新課程における

学習評価の課題整理・実践ポイント

2022年度から指導要録はどう変わる？

3観点での観点別評 A、B、Cの3段階を記載

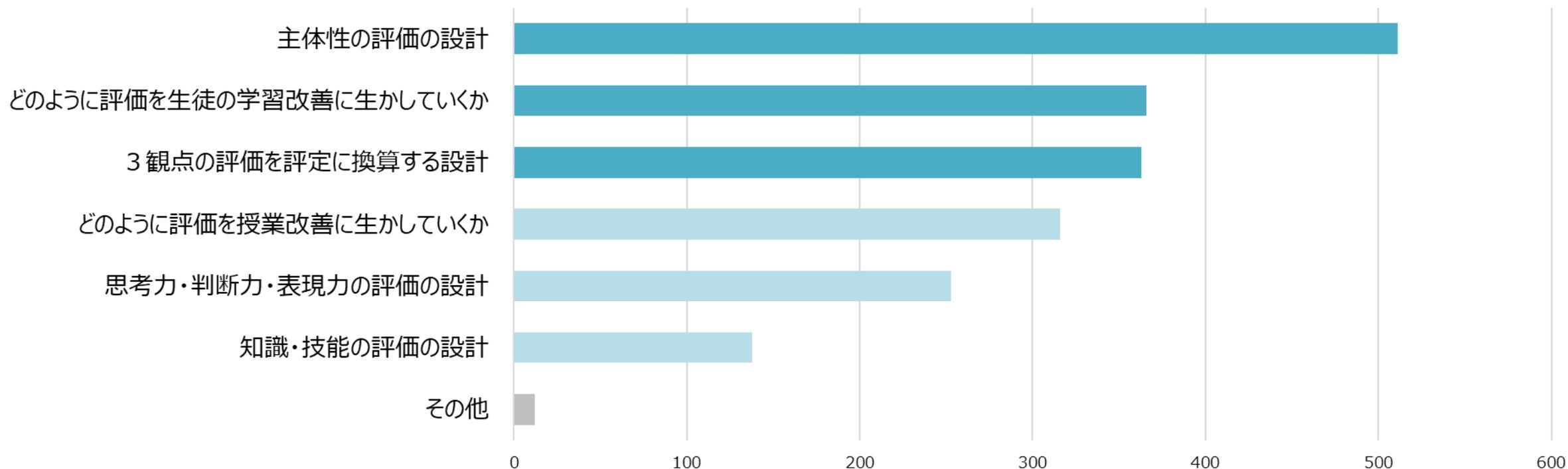
様式2 (指導に関する記録)																	
生徒氏名		学校名										区分	学年	1	2	3	4
												ホームルーム					
												整理番号					
		各教科・科目等の学習の記録															
		第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			備考			
各教科・科目等		学習 状況 別	評 定	修得 単 位 数													
教科等	科目等	学習 状況 別	評 定	修得 単 位 数	備考												
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国語	現代の国語															
		略															
		歴史															
		地理															
		公民															
		数学															
		理科															
		体育															
		保健															
		芸術															
		外国語															
		外国語															
		家庭															
		情報															
		理															

※出典：高等学校（全日制の課程・定時制の課程）生徒指導要録（参考様式）

「新課程レポート」動画解説 高木展郎先生ご講演資料より

本セミナー申し込み校では、「**主体的に学習に取り組む態度の評価**」が課題感として最も高く、次いで、「**生徒の学習改善**」「**評定換算の設計**」の順となっている。

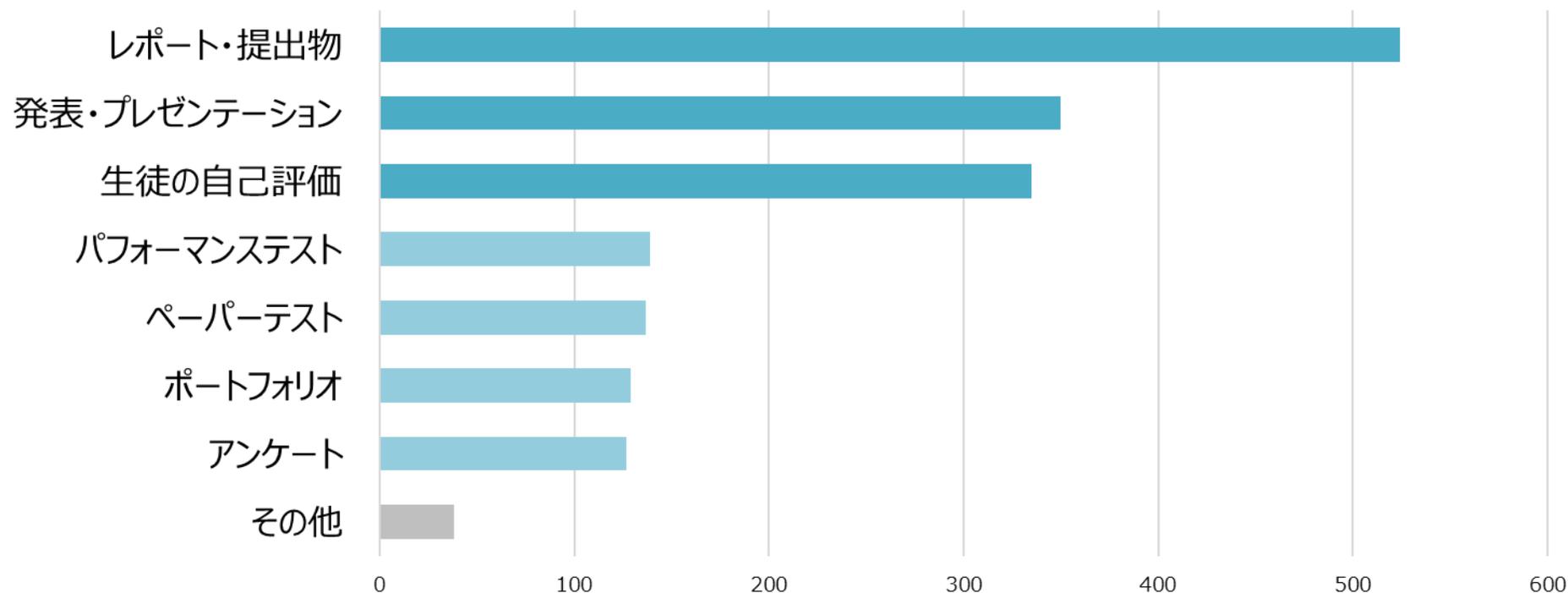
観点別評価における学校現場の課題



※第1回 新課程における教育実践と深化セミナー申し込みアンケート (658件 ※4月19日時点) より

主体的に学習に取り組む態度は
「レポート・提出物」「発表・プレゼン」「生徒の自己評価」
を用いた評価を計画している学校が多い。

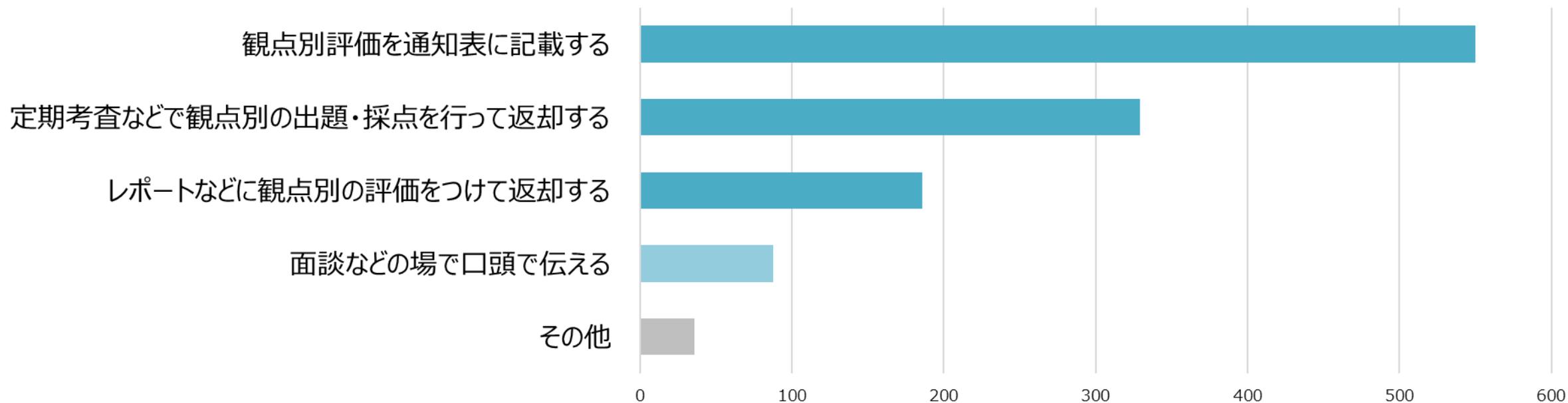
主体的に学習に取り組む態度をどう評価するか



※新課程および教育活動全般に関する調査（727件・2022年3月実施）より

約76%の学校では、**観点別のABCを通知表に記載**する予定。
 定期考査やレポートなどを観点別に評価し、FBするといった学校もみられる。

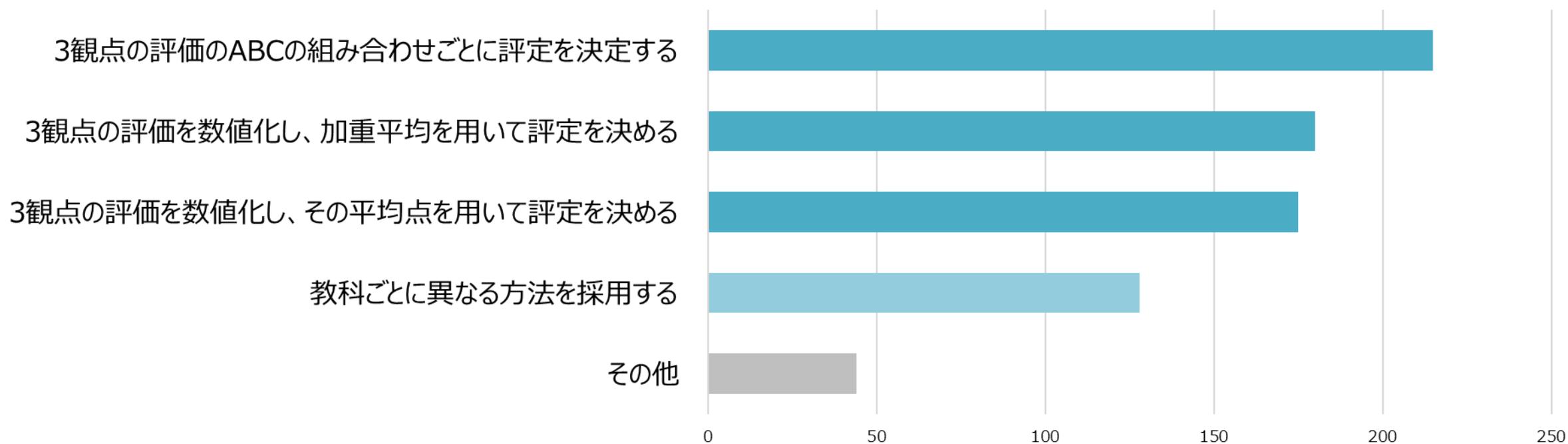
生徒へのFBのタイミング



※新課程および教育活動全般に関する調査（727件・2022年3月実施）より

3観点の評定換算は、「**ABCの組み合わせごと**」に設定する予定の学校が最も多いが、「**重視したい観点到に重みづけを行う**」など、各校の特性や評価のしやすさを考慮して設計する学校も多い。

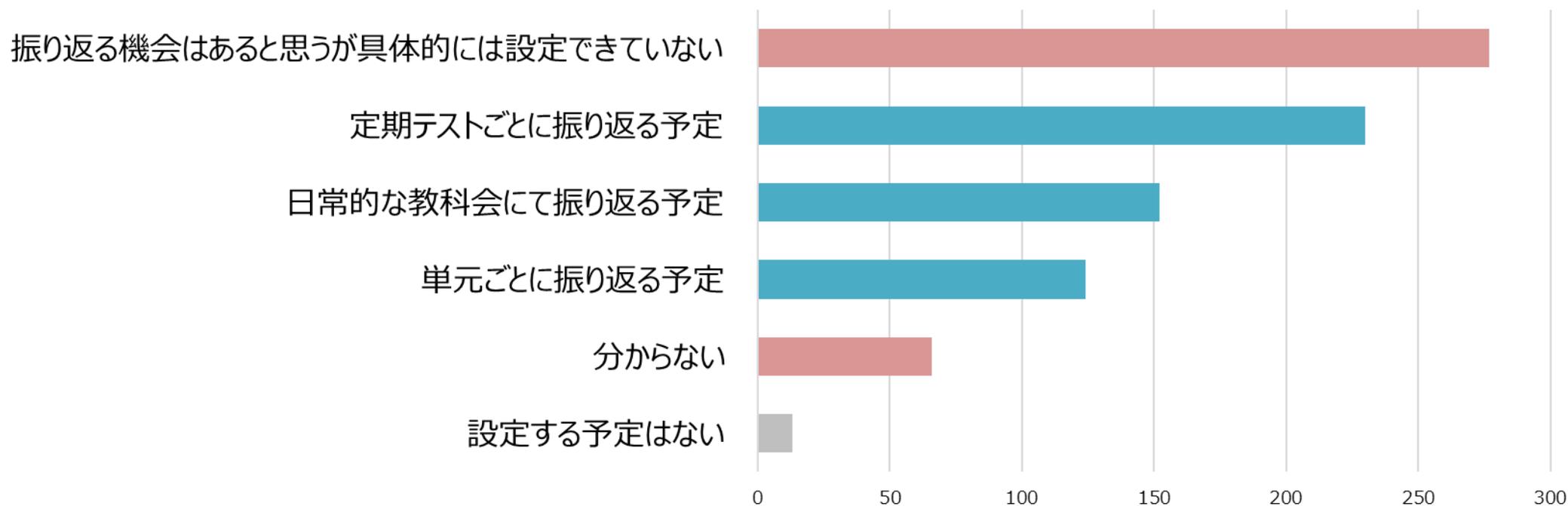
評定換算の方法



※新課程および教育活動全般に関する調査（727件・2022年3月実施）より

本セミナー申し込み校では、**定期テストや教科会、單元ごと**など様々な場面で学習評価を振り返る計画をたてているが、具体的に設定できていない学校も多い。

学習評価を振り返るタイミング



※第1回 新課程における教育実践と深化セミナー申し込みアンケート（658件 ※4月19日時点）より

主体的に学習に取り組む態度の**具体的な評価方法**が分からない

提出物やレポートなどをどのように**数値化**すればよいか、**客観性**をいかに保つかが不安である

負担感なく有効な評価をする方法

多様な評価方法と評価をどのようにフィードバックするかについて、具体的な実践モデルを教えてもらいたい

持続可能なシステムを作っていけるか不安

新入生への実施にあたり、生じた課題を**いつ、どのように修正していくか**に不安を感じている



主体性評価手法

生徒の学習改善

設計・軌道修正

【これまで】

※あくまでも一例です

【これから】

目的

できないことを明らかにし、値踏みする

生徒を前向きにし、学習改善に生かす + 先生方の授業改善に生かす

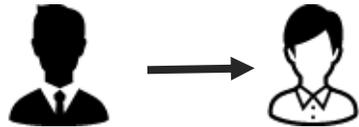
⇒年間を通じて多様な評価をしていくことが重要

タイミング

学期の終わりに 1 回

【診断的評価】
学習前・導入【形成的評価】
学習中【総括的評価】
何が身についたか

主体



手法



+



多様な手法を活用

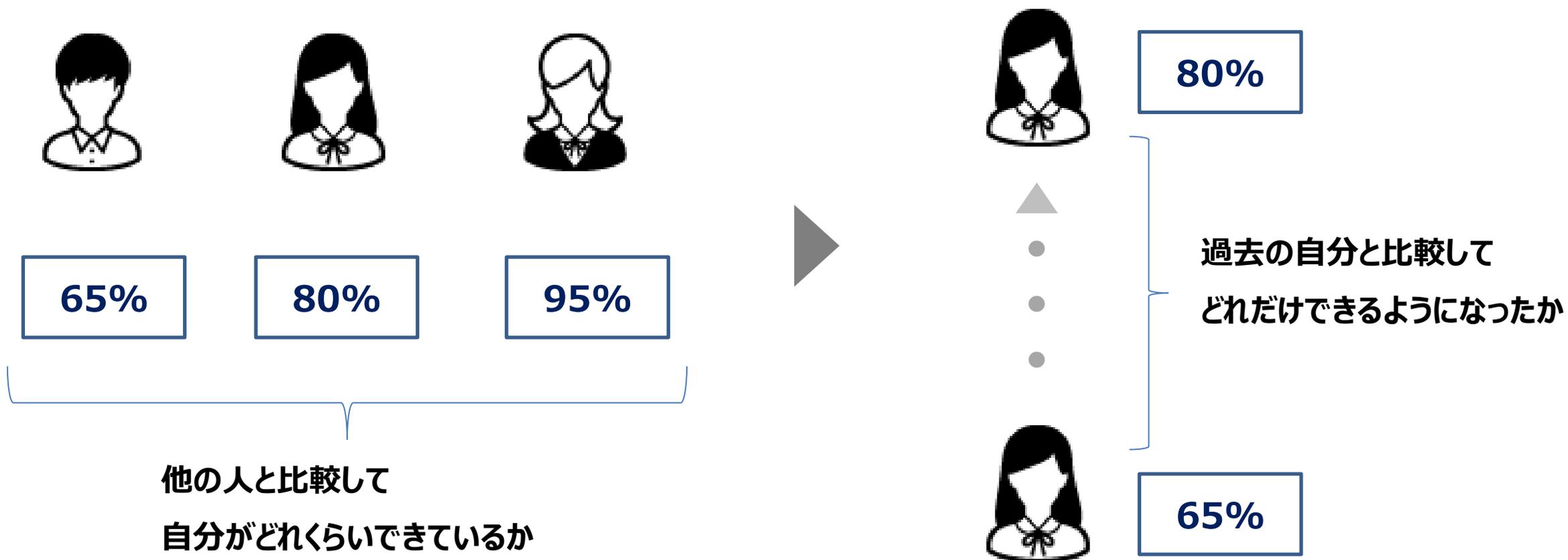
対象

単元の理解度

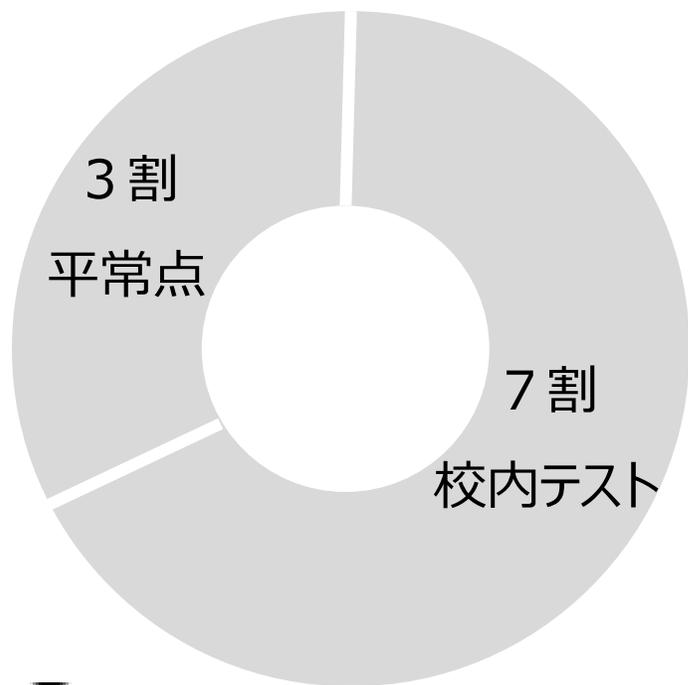
身についた資質・能力

(知識・技能／思考力・判断力・表現力／学びに向かう力)

左右の比較 から 前後の比較 へ



「全体」の力をテストと平常点で
(ある意味) 相対的に評価



85点 ⇒ 評定5

3つの資質・能力について
到達度に応じて多様な手法で評価

知識・技能	思考力・ 判断力・ 表現力	主体的に 学習に 取り組む態度
校内テスト	校内テスト レポート	振り返りシート ループブック
A	A	A



AAA ⇒ 評定5

知識・技能

知識・技能の習得と、それらを既存の知識・技能と関連づけ、活用するなかで、他の学習や生活場面でも活用できるくらい概念を理解、技能を習得しているか

思考力・判断力・表現力

知識・技能を活用し、課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているか

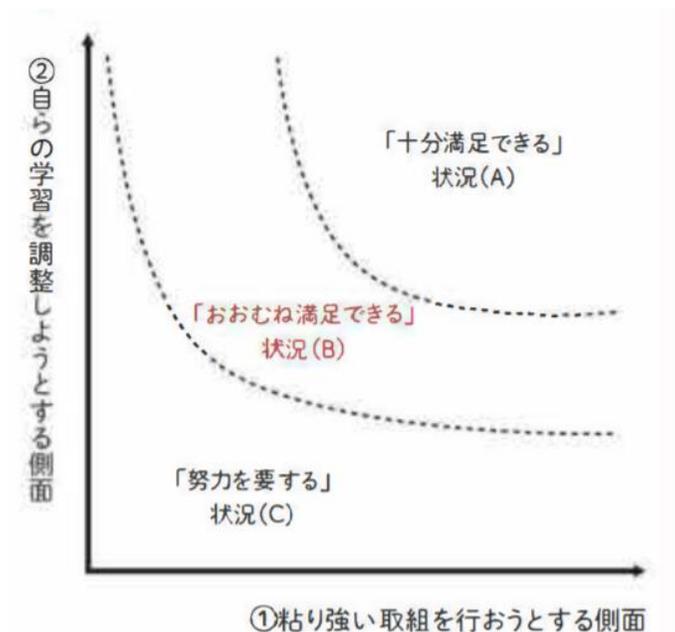
主体的に学習に取り組む態度

知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけるために、自らの学習状況を把握し、学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面

主体的に学習に取り組む態度とは
知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけるために

- ①粘り強い取組を行おうとする側面（粘り強さ）
- ②自らの学習を調整しようとする側面（自己調整）

出席率、提出物を出しているかどうかだけではなく、単元や題材といったまとまりごとに生徒自身が理解の状況や、学び方を振り返る機会をつくり、評価する必要がある



ポイント 1

**「主体的に学習に取り組む態度」を
どう評価するか**

ポイント 2

**3 観点の評価を学習改善に
どうつなげるか**

ポイント 3

**納得感のある評価に
どう深化させるか**



課題解決に向けた先進事例紹介

本日お伝えする実践例

「主体的に学習に取り組む態度」を
どう評価するか

「振り返りシート」「生徒の成果物の変容」「口頭試問」
で主体的に学習に取り組む態度を見取る実践

3 観点の評価を学習改善に
どうつなげるか

「考査のタグ付け」「振り返りシート」
「小テストを用いた形成的評価」
で生徒の学習改善に活かす実践

納得感のある評価に
どう深化させるか

「評価のオリエンテーション」
「ルーブリックの改善」「評定の再検討」
で先生・生徒の納得感のある評価へ近づける実践

ポイント 1

**「主体的に学習に取り組む態度」を
どう評価するか**

ポイント 2

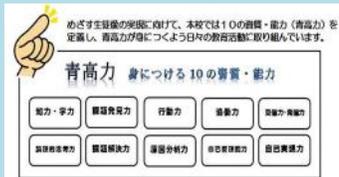
3 観点の評価を学習改善に
どうつなげるか

ポイント 3

納得感のある評価に
どう深化させるか

ポイント 1

学校として育てたい資質・能力
「青高力」を設定



ポイント 2

教科で育てたい資質・能力を明確化し
授業・評価計画をシラバスに表現



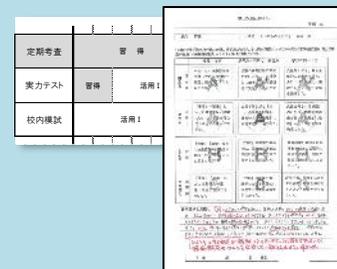
ポイント 3

育てたい資質・能力を
意識した授業実践



ポイント 4

観点別の評価の実践



ABC ポイント 5

観点別の総括的評価
(観点別にABCをつける)

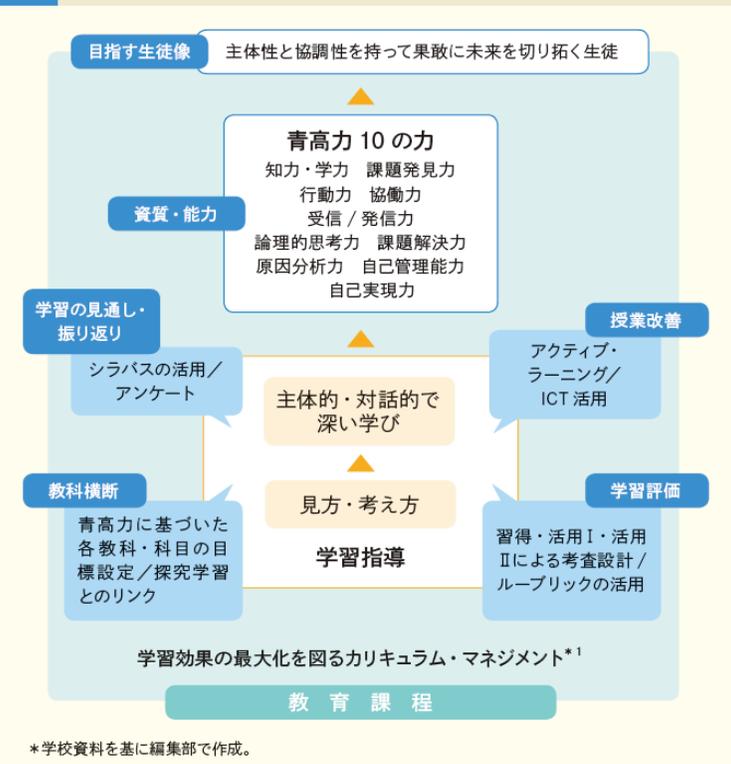
実カテスト	知識・技能	思・判・表	主体性
実カテスト①	A	B	—
1 中間	A	B	—
1 期末	A	A	—
実カテスト②	A	C	—
2 中間	B	A	—
2 期末	B	A	—
実カテスト③	B	C	—
学年末	A	A	—
考/実総合	A	A	—

ポイント 6

観点別評価を評定に換算

評点換算	評定	思考・判断・表現/知識・技能/主体性
100	5	AAA
95	5	AAB, ABA
90	5	ABB, BAA
85	4	BAB, BBA, AAC
80	4	BBB, CAA, ABC
75	4	CAB, BCA, CBA
70	4	CBB, BBC, BCB
65	3	CAC
60	3	CBC, BCC, CCB
55	2	CCC
50	2	CCC

図3 青森県立青森高校 カリキュラム・マネジメントの全体像



科目	(例)国語総合[現代文]	授業時数	週 2 単位 履修学年・類型	1 学年
目標	国語を適切に理解し表現するための知識・技能を高め、それに基づいて、論理的思考力・判断力を身に付けるとともに、適切に表現する力を伸ばし、主体的に国語に親しむ態度を身に付ける。			
■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか[めざす能力とその次元]				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
評価規準	基礎的な読解技法や読解力を駆使して複雑な論理展開や抽象度の高い読解や表現を使いこなすことができる。	複雑な論理展開や難解な表現を分析してわかりやすく説明し、あるいは自らテーマを設定し、考えを論理的に表現することができる。	広く社会に目を向け、現象から原理を導き出したり、因果関係を導き出したりする主体性や探究心を身に付けている。	
評価規準(育ちのプロセス)	論理展開の形式や、文学の理論・表現技法を正しく理解し、それを用いて読み、書くことができる。	論理展開や描写・表現の技法を把握しつつ、文章の主題を的確にとらえ、表現することができる。	自分の考えを他者と伝え合うことと、論理的かつ効果的に表現しようとする態度を身に付けている。	
習得(わかる)	基本的な文法および語彙の意味や文学史などの背景知識を正確に理解したうえで、話し、聞き、読み、書くことができる。	基礎的な読解力・文法力に基づいて筋道立てて考え、それを表現することができる。	積極的に読解力を伸ばし、話し、聞き、書く言語生活を豊かにしようとする態度を身に付けている。	
青高力	[知力・学力]	[知力・学力][論理的思考力][原因分析力][受信発信力]	[協働力][行動力]	
評価方法	授業時の観察・定期考査・課題確認テスト(小テスト)	授業時の観察・実力テスト・定期考査・課題レポートなど	授業に臨む姿勢や意欲、パフォーマンス評価(論文レポートなどの自主的な取組)	
■いつ、何を学ぶか[学習内容]				
学習内容	[入門]言葉との接し方・扱い方 [評論分野]評論文の読み方 [評論分野]対比構造(文化論) [小説]小説の読み方 [小説]構造的読みとり方			
1 学期	[評論]因果関係(近代科学論) [小説]心情の読みとり方			
2 学期	[評論]類比構造(言語論) [小説]主題の読みとり方 [図表]表やグラフの読み取り方 [随想]感性的な表現の読みとり方			
3 学期	[評論]総合的な読み取り [小説]背景や心情を踏まえ主題を読みとる [表現]自分の考えを論理的に書く			
■何で学ぶか[教材]				
教材	教科書「改訂版 国語総合 現代文編」教研出版 「現代文キーワード読解」Z会出版 「頻出漢字マスター3000」尚文出版 ・自主教材(プリント等)			
■どのように学ぶか[授業の方法/学び方]				
学び方	学んだ知識・読解技能を使って文章などを読み、時に自ら考え、あるときは他者と考えを伝え合うことで思考を深め、それを言葉で表現するという学び方です。単に授業担当の説明を聞いて板書をノートに写す、という、受身の授業ではありません。			

Sプロジェクト

大学合格者による進路・受験ガイダンス 実施要項

平成30年3月19日
青森高校進路指導部

- 目的 志望校決定の経緯や受験勉強について大学合格者(68回卒業生)から講話をしてもらい、進路決定の指針や受験勉強の参考にして意識を高める。
【課題発見力】【自己実現力】【自己管理能力】
- 日時と場所 平成30年3月19日(月) 15:40~

理系学部	1年1~4組	2の4・5教室		60名
	1年5~7組	物理室		56名
文系学部	2年生	図書学習センター		131名
	1年生	中教室+小教室		78名
	2年生	会議室		85名

- 対象 1・2学年の生徒(希望者)
- 形式 分科会ごとのワールドカフェ方式
 - ① チューター自己紹介
 - ② 8分ごとにチューターのテーブルを巡り、話を聞く。6人の先輩から話を伺う。
文系 3回転×2セット 理系 2回転×3セット
 - ③ 感想文記入
- チューター

青高力として10の力を設定

教科で育てたい資質・能力を明確化し、授業・評価計画をシラバスに表現

青高力は授業のみならず、学校生活の全てに浸透させていく

▶本校シラバスより

	50%		100%		想定得点率
定期考査	習得		活用 I	活用 II	60%
実力テスト	習得	活用 I	活用 II		50%
校内模試	活用 I		活用 II		40%

「思考・判断・表現」に重点を置いた設問を定期考査で40%（活用 I 30：10活用 II）
※初見の素材も出題できる。

「知識・技能」に重点を置いた設問を定期考査で60%

ポイント

習得・活用問題を下記のように定義し、
教員間で目線合わせをしている

- 習得：
授業の範囲で扱った知識の確認（1問1答など）
- 活用：
知識を手段として抽象度の高い概念の説明
（活用1：使う情報が明らか）／
（活用2：誘導がなく使う情報を見抜く必要有）

また教科を越えて問題を共有したり、
大学入試問題を参考にしたりすることで、
全体の作問力を高めている

史料2。

【表】 辛亥年七月中記す。乎 厩臣、上祖の名は意富比地、其の多加利足尼、其の児名は意比加利、其の児名は多加比次、其の児名は多加比次、其の児名は多加比次、其の児名は多加比次。

【表】 其の児名は加差按余、其の児名は乎 厩臣、世々統力入の首と為り、奉事し来り今に至る。携加多支師大王の寺、崩鬼宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、言が奉事せる根原を記す也。

(江田船山古墳出土鉄剣銘)。

「天下」治めず獲■西大王の世、奉事入、名は先■、大月中、大いなる■と、我せ、四尺の猛力を用い、八十六び鐘り、六十六び鐘り、三守上好の■刀なり、此の刀を贈する者は長寿、子孫注々三思を得る也、其の統ぶる所を去らざらむ、作刀者の名は伊太■、書者は張安也。」

(江田船山古墳出土鉄刀銘)。

複数の資料に基づいて、学んだ知識を組み合わせ思考・判断して表現する問題【活用 II】

模範解答に「活用 II」の印を記入して提示。
考査問題用紙にはあえて「習得」「活用」は明記せず、事後に初めて確認。

史料3。

中国(中国)	年号
任官年	372,386,413,416,425,421
第一	車騎大將軍
第二	車騎大將軍
第三	征東大將軍
第四	征東大將軍
第五	征東大將軍
第六	征東大將軍
第七	征東大將軍
第八	征東大將軍
第九	征東大將軍
第十	征東大將軍

問3	(1)	3点	ウ
	(2)	5点	史料の番号 2

〔再掲日本史 原始・奈良 ②〕をもとに作成

第二部 重みづけ「逆向き」で「指導と評価」を一体化

単元ごと自己評価シート			
現代文B		学期 No.	
単元	評論	小単元	いのちのかたち
<p>「知識・技能」「思考力判断力表現力」「学びに向かう力」それぞれの項目についてこの単元での学びを振り返り、自分が該当すると思われる段階を選び、A B Cを大きく丸で囲んでください。</p>			
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
使える	「抽象」「具体」といった抽象語彙を 支援無し で自らの判断で表現し 使いこなす ことができた。	段落の展開を把握する方法を 使いこなし 、 支援無し に筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援無し でも、自ら主体的に文章等を読み、身につけた語彙力・表現力を 使いこなす 姿勢を発揮した。
できる	「抽象」「具体」といった抽象語彙を用いた表現について、 支援を得ながら 活用することができた。	支援を得ながら 段落の展開を把握し、筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援を得られる 場面においては、抽象的な語彙を使って論理的に表現しようとする態度を発揮できた。
わかる	「抽象」「具体」などの抽象概念の対義語の意味・用法が わかる にとどまった。	段落の展開を把握する方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が わかる にとどまった。	抽象語彙の意味を知り、それを使って論理的に表現する姿勢・態度の 重要さがわかる にとどまった。
やり直し	「抽象」「具体」などの抽象概念の意味・用法が 理解できなかった 。	段落の展開把握の方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が 理解できなかった 。	語彙力、論理的に表現する姿勢・態度を伸ばそうという 意欲が持てなかった 。
振り返りと見直し			
<input type="text"/>			

観点

ツール

単元ごと自己評価シート

評価者

生徒（自己評価）＋教員

タイミング

単元の終わり

評価基準

ルーブリックで生徒に提示


 ポイント

- シラバスと連動させることで作成負荷を小さくしつつ、生徒、先生にも浸透
- 3つの段階は、単元共通で
 - ①目標に対して「支援なしでできる」
 - ②目標に対して「支援があればできる」
 - ③わかるにとどまった
 - ④理解ができていない
 という基準を設定することで、ルーブリック作成の負荷は小さく
- 生徒の評価と先生の評価に差がある場合は、生徒と話し上方修正・下方修正
- 自己評価シートのチェックをする代わりに、課題テキストの点検回数は減らす

教育情報センターのベネッセ公式Youtubeチャンネルにて限定公開中



青森高校 先生インタビュー動画（主体性評価について）

⇒ 限定公開



ベネッセコーポレーション・教育情報センター【高校向け】
チャンネル登録者数 163人



<https://youtu.be/oJvLz5NGv98>

単元ごと自己評価シート設計のポイント



- ① 教科・科目の目標を明示すること（抽象性_高）
- ② 単元で身につけたい資質・能力を明確化すること（抽象性_中）
- ③ その力を身につけるための取組を明示すること（具体性_高）
- ④ ルーブリックのテンプレートを作成すること
- ⑤ ④のテンプレートの上に②、③をプロットして評価語を作成すること
- ⑥ 次の単元においても同形式で行い、単元間の連続性・関連性、自己の資質・能力の伸びが実感できるようにすること。



「簡便性」「明瞭性」「継続性」を踏まえ、
6つのポイントを設定

「主体的に学習に取り組む態度」の
評価イメージ（評価の二側面）について

「意志的」な側面

- ① 「粘り強い取組を行おうとする側面」
- ② 「自らの学習を調整しようとする側面」

「～しようとする」という意志的な側面



行動を起こそうとする態度、プロセスの評価であり、
結果の評価ではない

「主体的に学習に取り組む態度」の
評価イメージ（評価の二側面）について

評価は「A」をベースにしてよい

↑

単元の目標を理解して取り組み、
自身の伸びや課題、今後やるべきこと



<地学>

- 単元名：岩石サイクルのエネルギー源を考えよう！
- 単元の目標：岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明できる

1年地基 NO-26

岩石サイクルのエネルギー源を考えよう！

目標：岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明できる。【思】

VERY GOOD!	OK!	ガンバレ！
岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を <u>根源的な大きなエネルギー源に結び付けて整理し</u> 、説明することができる。	岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明することができる。	

活動			
作用			
化学的風化作用	化学変化のエネルギー		
物理的風化作用			
侵食作用			
運搬作用			

観点

ツール

パフォーマンス課題

評価者

教員

タイミング

単元の終わり

評価基準

ループリックで課題と共に生徒に提示



ポイント

- 振り返りシートをもとに「主体的に学習に取り組む態度」の評価を実施していたが、それだけで評価することに限界を感じていた。
- 「思考・判断・表現」を評価する目的で実施していたパフォーマンス課題にペアワークを取り入れることで、他者の意見も取り入れられる仕組みとした。
- 他者の意見を聞いて成果物に活かそうとしているか、自身の学びを調整しようとしているか、といった視点から評価し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげる。



<地学>

- 単元名：岩石サイクルのエネルギー源を考えよう！
- 単元の目標：岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明できる

1年地基 NO-26

岩石サイクルのエネルギー源を考えよう！

目標：岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明できる。【思】

VERY GOOD!	OK!	ガンバレ！
岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を <u>根源的な大きなエネルギー源に結び付けて整理し</u> 、説明することができる。	岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明することができる。	

活動			
作用			
化学的風化作用	化学変化のエネルギー		
物理的風化作用			
侵食作用			
運搬作用			

観点

ツール

パフォーマンス課題

評価者

教員

タイミング

単元の終わり

評価基準

ループリックで課題と共に生徒に提示



ポイント

- 振り返りシートをもとに「主体的に学習に取り組む態度」の評価を実施していたが、それだけで評価することに限界を感じていた。
- 「思考・判断・表現」を評価する目的で実施していたパフォーマンス課題にペアワークを取り入れることで、他者の意見も取り入れられる仕組みとした。
- 他者の意見を聞いて成果物に活かそうとしているか、自身の学びを調整しようとしているか、といった視点から評価し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげる。

口頭試問「ワークシート」

10/11(月)2限より口頭試問を行います。本時は口頭試問に向けてギャラリートークを行います。希望調査から質問3つを指定したので、指定された場所で口頭試問の答え方を考えてみてください。実際の口頭試問では、選んだ3つの質問から1つ選んで質問します。

質問集

- 1 次の積分の例を挙げてください。
 - ・部分積分を2回以上用いて計算をする不定積分
 - ・三角関数で置換する定積分
- 2 積分を用いると $x=f(y)$ や媒介変数表示の関数の面積を求められます。面積を求める方法と、面積を求められる理由を説明してください。
- 3 積分を用いると x 軸まわりの回転体 (y 軸まわりの回転体) の体積を求められます。体積を求める方法と、体積を求められる理由を説明してください。
- 4 微分と積分を用いると、曲線の長さを求められます。曲線の長さを求める方法と、曲線の長さが求められる理由を説明してください。
- 5 2回微分 $f''(x)$ の符号を調べると、曲線 $y=f(x)$ の凹凸を調べられます。曲線の凹凸を調べる方法と、曲線の凹凸が調べられる理由を説明してください。

【口頭試問実施の流れ】

～口頭試問実施前の授業（1コマ）～

- ① 質問集を記載したワークシートを生徒に配布。
- ② 提示された質問の中から生徒自身で3問を選択する。
- ③ 同じ設問を選択した生徒同士で「ギャラリートーク」を行い、その設問に対する理解を深め、口頭試問での回答内容を作成する。
- ④ ギャラリートークで得られた他者の意見や知識を踏まえ、質問に対する回答をワークシートへ記入する。
- ⑤ 記入したワークシートの内容やギャラリートークの様子を見て、先生が主体的に学習に取り組む態度の評価をつける。

～口頭試問当日～

- ⑥ 生徒が選択した3問の中から、先生が1問をピックアップし、口頭試問を実施。（1名あたり6～8分程度）
- ⑦ 提示した質問集の内容だけでなく、もっと深い思考が必要な質問も投げかけ、その回答内容によって思考力を見取る。

ギャラリートークで記入するワークシート

質問番号	質問
答え方	

「思考力」「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準

1. 評価基準

	4	3	2	1
思考力	<ul style="list-style-type: none"> ● 自明でない適切な具体例を挙げることができている。 ● 質問の意図を理解し、適切に説明することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自明であるが、適切な具体例を挙げることができている。 ● 過不足あるものの、説明することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自明であるが、適切な具体例を挙げることができている。 ● 質問を理解しているが言葉が足らず、説明できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な具体例を挙げることができない。 ● 質問を理解できず、説明できない。
主体態度	選んだ 3つ の質問の「答え方」が内容も含めて十分書かれている。	選んだ3つの質問のうち 2つ の「答え方」が内容も含めて十分書かれている。	選んだ3つの質問のうち 1つ の「答え方」が内容も含めて十分書かれている。	質問の「答え方」で、内容も含めて十分に書かれているものがない。

👇 ポイント

- 初回の実施（2021年1学期）では、**口頭試問本番になると何も答えられない生徒や丸暗記している内容以外は答えられない生徒が複数**いたため、2回目の実施（2021年2学期）では、その設問への**理解を深めるため、ギャラリートーク（1設問あたり10分）の時間を確保した。**
- 口頭試問では、1人に対して6～8分程度の時間が必要となるため、**考査前の演習時間を活用して実施することで、口頭試問を実施していない生徒は考査に向けた演習をする時間に充てられるように設計した。**
- 口頭試問という形式をとることで、**学校推薦型選抜・総合型選抜でも求められる力を育成することができた。**
- 評価基準や運営方法などはこれから検討を重ね、改善していく予定。

ポイント 1

「主体的に学習に取り組む態度」を
どう評価するか

ポイント 2

**3 観点の評価を学習改善に
どうつなげるか**

ポイント 3

納得感のある評価に
どう深化させるか

知・理 20 四				読む力 20 三				知・理 30 二				書く力 30 一				
【課題の取り組みを見る問題】 20点				【発展的な問題】 20点								【授業の理解度を見る問題】 60点				
⑩	⑪	⑥	①	問4 C	問2 A	問1 a	問8 (1)	問6 ウ	問5 (2)	問4 (1)	問3 (1)	問4 C	問3 B	問2 A	問1 a	
鎮庄	盗賊	赴任	いがた	(例) 死んでほしくない	(例) 妹にもう死ぬんだよ	信 仰 間3 青 ぐら い 修 羅 を 歩 い て る	宮沢 賢治	間7 ウ	妹の一人で行くという言葉にショックを受け、うまく意味が呑み込めずにいることを表現するため。(妹と別れてしまうことを強調するため) も可	私は一人で一人行きます。	著鉛いろの暗い雲	(例) 食品に関するゴミに税金かけて、ゴミを出しにくくさせる	オ	4	(例) 傷んだものを出して、食中毒が出たら困る。	探 提 勤
⑬	⑫	⑦	②			よ う な	4	2 + 4		死んでしまうこと	岩手県		4	で き ま せ ん	④ ①	
⑮	⑭	⑧	③			b	(2)			あめゆきをとってきてください	(2)		3	す け し かし	b	
⑯	⑰	⑨	④			き ょう	イ			ウ	ウ			私 は	⑤ ②	
⑲	⑱	⑩	⑤			c	(3)			2 + 3	ウ			て し ま う	c	
⑳	㉑	⑪				ほんとう	ウ			2 + 3	1×3			母	1×3	
㉒	㉓	⑫				る	1×3			2	2×2			ら れ る	2×6	
㉔	㉕	⑬														
㉖	㉗	⑭														
㉘	㉙	⑮														
㉚	㉛	⑯														
㉜	㉝	⑰														
㉞	㉟	⑱														
㊱	㊲	⑳														
㊳	㊴	㉑														
㊵	㊶	㉒														
㊷	㊸	㉓														
㊹	㊺	㉔														
㊻	㊼	㉕														
㊽	㊾	㉖														
㊿	㊿	㉗														
計																

令和2年度 2年現代文B 二学期期末試験

解答用紙

HR

No.

氏名

書く力	30
読む力	20
知・理	50
計	70



ポイント

□定期考査では、観点別の出題・採点を行い、生徒へのFBや指導改善に生かしている。

論理展開を確かめる 単元のまとめ

HRNO 氏名

この単元では評論の読み方とグラフや数字の見方を学習しました。授業を踏まえ、評論を読む上で注意すべきことを論じなさい。

◆ループリック

A	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、授業での気づきや自分なりの視点を含めて、評論文を上で注意すべき点を記述できている。 相手に伝わるように論理的かつ表現に注意して書かれている。
B	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、評論文を読む上で注意すべき点を記述できている。 相手に伝わる表現で書かれている。
C	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことが書かれていない。 文章表現が適切でない。 テーマからずれている。字数が不足している。

観点	
ツール	単元終わりのまとめレポート
評価者	教員
タイミング	単元の終わり
内容	単元の内容
評価基準	ループリックで生徒に提示


 ポイント

- 生徒に事前にループリックを提示し、目標を意識して取り組むことを促す。
- Cがついた生徒には、落ち込む必要はないことを伝え、**どうしてCだったかをループリックをもとに振り返るように声かけし、次の学びにつながるようにしている。**
※Cがつく生徒の場合、解答すべきテーマがずれている場合が多いので、そのことを生徒に気づかせ、次の単元での改善を促す。

1年地基 ルーブリック 練習29

地球の層構造(地殻・マントル・外核・内核)はどのようにしてできたのか、説明せよ。

解答		
A	B	C
地球の層構造がどのようにしてできたのか、地球の温度と時間の関係に着目して説明している。	地球の層構造がどのようにしてできたのか説明している。	Bの基準を満たしていない。

自己評価【 】

相互評価【 】 評価者：1年 組 番 名前（ ）

教員評価【 】

1年 組 番 名前（ ）

↓ ポイント

- 「思考・判断・表現」の形成的評価を充実させるため、小テストを活用。
- 合計15分（個人ワーク5分・相互FB10分）で取り組ませる。
- 小テスト内にあらかじめ提示されているルーブリックをもとに、**個人ワークの時間で自己評価**を行う。
- 個人ワーク後、ペアを作りそれぞれの個人ワークの内容を確認し、**相互評価を記入し、評価の根拠を相手に伝える**。
- どういった点が評価されて（されていない）その評価になったのかを**生徒同士で指摘し、考察**させる。
- パフォーマンス課題の評価や総括的評価につなげていくため**、成果物は先生が確認し、評価やFBがずれている生徒には、教員から声かけを行い、FBする。
- 教員はルーブリックを軌道修正でき、生徒はどういった場合に評価されるのかを認識でき、**互いに評価の納得度が高められる**。

ポイント 1

「主体的に学習に取り組む態度」を
どう評価するか

ポイント 2

3 観点の評価を学習改善に
どうつなげるか

ポイント 3

**納得感のある評価に
どう深化させるか**

青森高校 新入生オリエンテーション資料 より

2 青森高校が大切にしている概念(1)



青高力10の力

【知識・技能】

知力・学力

【思考・判断・表現】

課題発見力

論理的思考力

課題解決力

原因分析力

受信・発信力

【主体的に取り組む態度】

協働力

行動力

自己管理能力

自己実現力



3 青森高校が大切にしている概念(2)



活用II

使える

【思考・判断・表現】

活用I

できる

習得

わかる

【知識・技能】

活用II【思考・判断・表現】

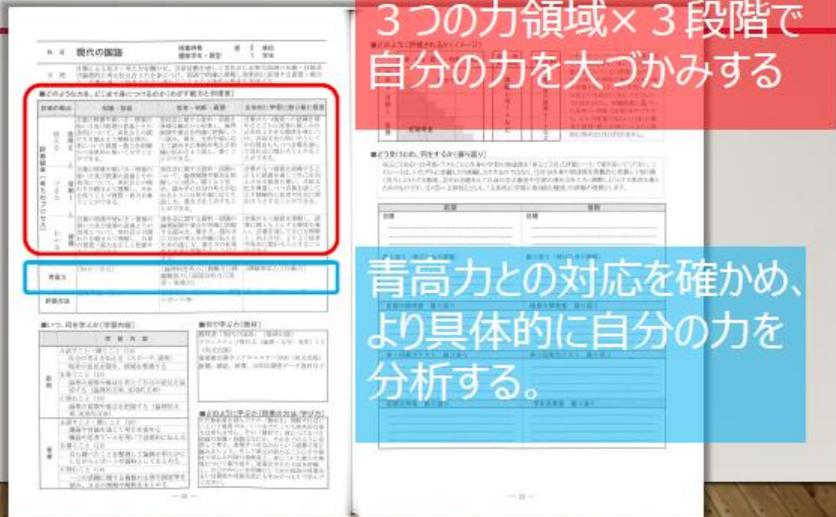
- 一見するとどの知識を活用して解けばよいのかが明示的でなく、観点を改めて突破口を見いだす**発想力**が求められる。
- **既有知識を組み合わせて、相手に伝わるように論理的かつ適切に説明できる次元のこと。知識の単純な活用ではなく、活用の仕方そのものを考え出して解答を導くようなレベル。【思考力・判断力・表現力】**

例を挙げると…

円周率が3.05よりも大きいことを証明せよ。

4 各科目のシラバスを開いてみよう!

3つの力領域×3段階で
自分の力を大づかみする



青高力との対応を確かめ、
より具体的に自分の力を
分析する。

5 何によって、どのように評価されるのか?

各考査テストで「習得」=【知識・技能】領域
「活用」=【思考・判断・表現】領域
をそれぞれ独立してABC評価する。

テスト

課題レポート・論述課題などで「活用」=【思考・判断・表現】領域を、
授業内の小テストなどで【知識・技能】をABC評価する。

授業

※単元ごと振り返りシートで=【主体性】領域をABC評価する

授業

6 こんなふうには評価がつきます

3領域それぞれについてA・B・Cの評価がつき、それを点数化したものの合計を、規準に則って5段階の評価にする。

※評点の数値は、イメージです。

観点別総括的評価	知識・技能	評点	思考・判断・表現	評点	主体性	評点
	A	25	B	40	A	25

評 定	観点別評価組み合わせ	評点	評定
	ABA	90	5

要するに、テストだけで評価されるのではないし、テストの合計点や順位で単純に評価が決まるのではない、ということ。

ポイント

- 「学校として育成をめざす資質・能力」「評価のタイミング・手法」などを、4月のオリエンテーションの場で新入生に発信し共通認識を持てるように設計している。
- オリエンテーションでは、情報共有だけでなく、世界で発生している諸問題と絡め、学校として育てたい資質・能力、問題解決力を社会に出た後にどのように発揮するかを考えさせ、オリエンテーションの振り返りをClassiで記入させている。
- オリエンテーションで評価についての共通認識を持つ場を設定するが、生徒の状況や実際に評価をつけてみた感触を振り返りながら柔軟に軌道修正していく予定。

～ 1 学年オリエンテーション最後のまとめの講話より～

【救急車とヘリコプター】

スペインの農村では人口流出が進み、村を丸ごと売りに出すという地区がたくさんあるようだ。人口減が限界を超え、社会サービスが行き届かなくなっているという。

あるときそんな限界集落に住む少年が大けがを負い救急車を呼んだが、救急医療がその地区まで行き届いておらず、不幸にもその少年は亡くなってしまった。

—数十分後—

その村にヘリコプターがどこからともなく轟音を響かせて到着した。そのヘリは、少年の臓器を摘出し、移植を待つ大都市の患者のもとへと運んで行った…。村に救急車は来ないのに、臓器を運ぶヘリは迅速にやってきてマドリードへ飛び去って行く。私はこの事実には愕然とし、名状しがたい憤りを覚えた。と同時に、そのことを解決するための知識や情報が無い自分、現実の悲惨さの前に何もできない自分に憤りを覚えた。しかしただ怒っていても何も変わらない。このやり場のない怒りを適切に解きほぐし、生産的なものに変換するには知識・技能が不可欠だし、考えて判断しそれを人に伝える力も必要だ。無力感を味わってもどかしさを感じたら、我々はまず学ぶことから始めるしかない。この問題一つとっても、政治・行政・医療・法律・都市と地方様々な角度からのアプローチが可能だ。さあ皆さんはこの話を聞いて、どんな感情を抱いたか？自分に無力感を覚えなかったか？

まずは学ぶこと。社会にあふれる不条理や矛盾に目を向け、その解決のために必要な知識を貪欲に取り込み、それを変えられるだけの力を身につけたいものだ。そのために「習得、活用Ⅰ、活用Ⅱ」という到達度概念があり、資質・能力を分節化した「青高力10の力」があるのだ。

新入生オリエンテーションでの「青森高校で育てたい資質・能力」「評価手法」などの浸透とともに 生徒自身の評価観の転換がみられた

評定は**テストの点数だけでなく、他の点においてもつくもの**だと知りました。反省で終わるのではなく、**振り返りで次やらなければならないことを明確にすることが大切**だと思いました。青高10の力を授業で身につけたいです。

真の学力を得るということが深く心に残りました。今までとは違い、**テストの順位にとらわれない**という考え方がある事を知り、学力とともに教養を得ることができるような学習をすることを心がけたいと思いました。

「**真の学力**」という言葉が心に残った。

今までは**高校に入る**、学校内で**いい順位**を取る、という考えで勉強してきたため、それは**勉強の本質とはかけ離れていた**んだと分かった。これからは真の学力を身につけ、高校で学んだことが大人になったときにしっかり生かされるようにしたい。

正直これまでは、**授業で習ったことをそっくりそのまま覚えて、テストで点が取れば**いいやと思っていた。だが今日のお話で、その**考え方は一変**した。ただ理解するだけではなく、学んだことを自分のものにする、そして活用して自分で物事を考えて発信することこそが、自分に求められている思考力、判断力、表現力であると気づかされた。

中学校の頃から**大事だな、身につけたいな**と考えていた力と似ているなと思い、**青森高校に入学できて本当によかった**なと思いました。

青高力10の力をしっかりと身につけられるように頑張りたいです。

今回話を聞いて、私は**今まで点数を取るための勉強しかしてこなかったのではない**かと感じました。

これからは話の中で出てきたような「**思考力・判断力・表現力**」に目を向け、自分の今後を考えた、主体的・意欲的な学習に取り組んで行きたいです。

はじめに設定した評価基準では教員間でばらつきが大きく、評価基準を再作成

『城の崎にて』志賀直哉 より

(1) 評価方法

ワークシート（「なぜ『自分』は死について考えを巡らせたのか？」）

(2) 評価基準

①当初の評価基準

A	B	C
<ul style="list-style-type: none"> ・300字以上書くことができている。 ・対比比較の構文を使っている。 ・「自分」が死を可能性として感じている点と正岡子規が死を現実のものとして捉えている点への指摘ができており、論理的な帰結になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・300字以上書くことができている。 ・対比比較の構文を使っていない。 ・「自分」が死を可能性として感じている点と正岡子規が死を現実のものとして捉えている点への指摘ができており、論理的な帰結になっている。 	300字以上書くことができている。



②新しく作成した評価基準

A	B	C
「自分」と正岡子規の状況の対比ができている。 「自分」が死について考えを巡らせた理由を複数考えられている。	「自分」と正岡子規の状況の対比ができている。 「自分」が死について考えを巡らせた理由を1つ考えられている。	Bの基準を満たしていない。

結果

A…5% B…92% C…3%

思考・判断・表現の評価の流れ

- ①思考・判断・表現についての評価のルーブリックを作成。
- ②教員が作成した成果物を、
複数の教員がルーブリックをもとに評価。
- ③上記②を集計し、**先生間での評価のズレを確認。**
- ④ルーブリックの内容を見直し、**新しく評価基準を作成。**

新しく作成した評価基準のポイント

- 単元の目標、授業の内容に沿ったルーブリックとした。
- 評価項目をシンプルに改定し、育成したい資質・能力がはぐくまれているかに絞って項目を設定した。
- B評価の到達度を基準とし、理由の個数など、具体的な**評価基準**を設けることで、ブレの少ない評価基準を作成。

細かく設定すると、本当に評価したい成果物を評価できない場面もあり、大まかなルーブリックへ修正

倫理（2020年度） 思考・判断・表現力 のルーブリック

評価	
A	①さまざまな先哲の思想（2人以上の思想）をもとに、考えることができる。 ②結論に対する理由や根拠を、キーワードを5つ以上用いて、論理的かつ明確に表現することができる。 ③自分の意見に対する批判も考え、それに答えることができる。 ④他者（他のグループ）の意見について触れている。
B	⑤先哲の思想（1人のみ）をもとに、考えることができる。 ⑥結論に対する理由や根拠を、キーワードを用いて、論理的かつ明確に表現することができる。
C	⑤⑥を満たせていない。



評価	
A	①さまざまな先哲の思想を比較し、考えることができている。 ②結論に対する理由や根拠を、論理的かつ明確に述べている。
B	①先哲の思想を用いて考えることができている。 ②結論に対する理由や根拠を述べている。
C	不十分

↓ ルーブリックの改善案検討

【よかった点】

- キーワード何個以上など、具体的な数値で表し、客観的でわかりやすく、評価もブレにくい。

【改善点】

- 項目が多く煩雑。評価に時間がかかる。
- 評価のポイントを細かく詰め込みすぎたため、かえって評価しにくい場面もあった。

↓ 新しく作成した評価基準のポイント

- ある程度ルーブリックの表記を簡略化（大まかに設定）することで、評価の幅を持たせ、高く評価したい成果物に対応できるようにした。
- ルーブリックの簡略化に伴い、評価の意図が伝わりにくくなる危惧があるため、ワークに取り組む前に具体的なポイントを生徒へ提示するなどの工夫をした。（こんな内容が書けていたらA評価。グループワークでは、こういった取り組みをしてみよう。 など）

御殿場高校 職員会議資料（2022年4月）より

2年間の研究から分かった問題点は？

- ①平均評定が下がる（分布の山が4→3）
- ②主体的な学習に向かう態度の評価が難しい



2年間の研究から分かった問題点は？

①平均評定が下がる

方策① 5の幅を広げる

「AAB」「ABA」「BAA」も「5」とする

方策② 企業等には説明し、

理解してもらう

ポイント

- 4月の職員会議で、新任の先生も含め、これまでの評価の取り組みと課題点を整理し、それを踏まえた今後の方向性を提示。
- 特に課題となったのは、2021年度に仮で評定を出した際、全体の評定平均が下がることであった。
その解決策として、以下2点を方針として示し、教員間で理解・浸透を図る。

- ①2021年度の研究では、**評定の5の基準を「AAA」のみ**としたが、2022年度は**「AAB・ABA・BAA」と1つBがあっても評定5**とし、設計を変更した。
- ②就職先の**企業担当者へ2022年度からの評価基準の変更やその背景・意図を伝え**、理解・浸透を図ることとした。

【注意】ご紹介する換算パターンはあくまでも「事例」であり、ルールではありません

学校として育てたい資質・能力や、生徒の状況を鑑み、各校でご検討ください

※エリアによっては教育委員会からの規定がある場合もあるので、それに従ってください

手法		詳細	
	パターン①	3観点の合計点方式 (A = 3、B = 2、C = 1 など)	合計点
3 観点の重みづけ無し (1 : 1 : 1)	パターン②	各観点の総括的達成状況を100%で計算し、その平均に基づいて算出	平均点
	パターン③	各観点の総括的達成状況を100%で計算し、それを5段階評価 ABCの組み合わせで算出	組み合わせ
3 観点のうち、 一部の観点到に重みづけ	パターン④	思考力・判断力・表現力に重みづけをした評定換算表方式	組み合わせ
	パターン⑤	思考力・判断力・表現力に重みづけをした評点化方式	合計点

3観点到重みづけはせず、A = 3、B = 2、C = 1とし、その合計で評価

5段階評定への数値表（合計）A = 3、B = 2、C = 1とする

3観点の合計	評定
9	5
8、7	4
6、5	3
4	2
3	1

【例】

知識・技能 = B ⇒ 2
 思考力・判断力・表現力 = C ⇒ 1
 主体的に学習に取り組む態度 = B ⇒ 2

3観点の合計 = 5 数値表から評定は3

A = 3点 B = 2点 C = 1点

■ AAB = 合計8

■ ABA = 合計8

どちらも4

★参考資料をハイスクールオンライン 新課程レポート に掲載中！ぜひご
 ハイスクールオンラインTOP >画面中央 新課程（緑色のボタン） >【先
https://bhsb.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/report/210

4. 学年末の評定への総括方法①（総括的達成状況の平均から総括する方法）

- 各観点の総括的達成状況 0～100%の平均に基づいて算出する。
- ※各観点の総括的達成状況＝各観点の1～3学期の達成状況の平均

【総括的達成状況と評定の対応表】

総括的 達成状況 の平均	評価	評定	参考
100	A	5	5
95～99			
90～94			
85～89			
80～84			
75～79	B	4	4
70～74			
65～69			
60～64			
55～59			
50～54	C	3	3
45～49			
40～44			
35～39			
30～34			
25～29	C	2	2
20～24			
15～19			
10～14			
5～9	C	1	1
0～4			
0			
0			

※「参考」は府の手引きの例

①各観点の総括的達成状況の平均を算出

【例】

	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力	主体的に学習に 取り組む態度
1学期	60	50	70
2学期	70	60	80
3学期	80	70	90
総括 (平均)	70	60	80
観点別評価	A	B	A

②対応表から換算
評定

70 → 4

※検討中のものであり、変更になる可能性があります

5. 学年末の評定への総括方法②（5段階の観点別評価の個数から総括する方法）

- ・評定を算出するために、各観点の総合的達成状況0～100%に基づいて5段階の評価を算出する。
- ※各観点の総合的達成状況＝各観点の1～3学期の達成状況の平均
- ・学年末の観点別5段階の評価結果の組み合わせから、評定を算出する。

【総合的達成状況と5段階評価の対応表】

総合的達成状況	評価
100	A+
95～99	
90～94	
85～89	
80～84	
75～79	A
70～74	
65～69	B
60～64	
55～59	
50～54	
45～49	C
40～44	
35～39	C-
30～34	
25～29	
20～24	
～19	

【評価の組み合わせと評定の対応表】

組み合わせ	評定
A+A+A+, A+A+A, A+AA	5
AAA, AAB, A+A+B, A+AB	4
ABB, A+BB AAC, A+A+C, A+AC, AAC-, A+A+C-, A+AC- ABC, A+BC, ABC-, A+BC- ACC, A+CC, A+CC-, A+C-C-, ACC-, AC-C- BBB	3
BBC, BBC- CCC, BCC, BCC-, BC-C-	2
C-C-C-, C-C-C, C-CC	1

- ・「3」を基本として、
AAB以上が「4」、BCC以下が「1」
- ・AAAのうち、A+がある⇒「5」
- ・CCCのうち、C-がある⇒「1」

(参考資料) 府の手引きの例

組み合わせ	評定
AAAの中で特に程度が高いもの	5
AAA, AAB	4
ABB, AAC, ABC, ACC, BBB, BBC	3
BCC, CCC	2
CCCの中で一層努力を要するもの	1

①各観点の総合的達成状況の平均を算出

【例】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1学期	60	50	70
2学期	70	60	80
3学期	80	70	90
総括(平均)	70	60	80
観点別評価	A	B	A (A+)

②組み合わせで換算
評定

ABA+ → 4

※検討中のものであり、変更になる可能性があります

【パターン④】3観点のうち、一部の観点到に重みづけ & 評定換算表

3観点のうち、思考力・判断力・表現力に重みづけ

換算表を作成し、思考力・判断力・表現力がBであれば主体性+知識・技能がAAでも評定が4になる設計

「学習評価」を「評定」へ落とし込む「仕組み」案（4）

簡便性

観点別評価→評定換算表方式

※観点別評価の総合換算の方式は今後変更になる可能性があります。

			評価カテゴリー	知識・技能	断 思 考・ 表 現 判	習 主 む 体 態 的 度 取 り 組 み 学	評 定
1801	青森太郎	(1)	単元総合	A	A	A	
1801	青森太郎	(2)	考查/実テ	A	A	—	
1801	青森太郎	(3)	その他	—	B	A	
1801	青森太郎	—	総合	A	A	A	5

主体性		A	B	A	B	A	B	C	C	C
知識・技能		A	A	B	B	C	C	C	A	B
思考・判断・表現	A	5	5	5	4	4	4	3	3	3
	B	4	4	4	4	4	4	3	3	3
	C	3	3	3	3	3	3	3	3	3
総合評価										

3観点のうち、「思考・判断・表現」に重みづけをした「換算表」を設計。
 【換算表のみかた】
 「思考・判断・表現」をヨコに、主体性+知識・技能の組み合わせをタテになぞって、クロスしたマスが「評定」。
 「思考・判断・表現」が「B」ならば、「主体性+知識・技能=AA」でも、総合評価は「4」となる。ただし、いくら「思考・判断・表現」が「A」でも、主体性「C」ならば評定は「3」となる。

3観点のうち、思考力・判断力・表現力に重みづけ

評点換算表を作成し、AAAが100点になるように配点 評点換算と評定が対応

「学習評価」を「評定」へ落とし込む「仕組み」案（5）

明瞭性 妥当性 実行可能性

観点別評価→評点化方式

※観点別評価の総合換算の方式等は今後変更になる可能性があります。

		評価カテゴリー	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1801	青森太郎	(1) 単元総合	A	A	A	
1801	青森太郎	(2) 考査/実テ	A	A	-	
1801	青森太郎	(3) その他	-	B	A	
1801	青森太郎	- 総合	A	A	A	5

評点換算	評定	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体性		
100	5	AAA		
95	5	AAB	ABA	
90	5	ABB	BAA	
85	4	BAB	BBA	AAC
80	4	BBB	CAA	ABC
75	4	CAB	BCA	CBA
70	4	CBB	BBC	BCB
65	3	CAC		
60	3	CBC	BCC	CCB
55	-	-	-	-
50	2	CCC		

評点換算表

観点	評価	評点	評価	評点	評価	評点
思考・判断・表現	A	50	B	40	C	30
知識・技能	A	25	B	20	C	10
主体性	A	25	B	20	C	10

3観点のうち、「思考・判断・表現」に重みづけをした「評点換算表」を設計。AAA=100点になるように配点を設定。

今回の「新課程・観点別評価」は、**未知の大きな変化**です。

前例がないからこそ、年度初めに設定した評価計画・評価基準も、

状況次第で柔軟に変えていく必要があると感じています。

教員・生徒・保護者に理解してもらう場を設定しながら、

納得感のある評価の設計を模索していく予定です。

先進校の実践事例から見るポイント

軌道修正

様々な**実践例を試し、軌道修正**しながら自校に合った手法へブラッシュアップする

共通認識

教員だけでなく、生徒（保護者）にも**評価に対する共通認識を持てる場**を設定する

振り返り

教員間で評価を振り返る機会を設定し、**生徒の現状に合わせた再設計**を計画している

3観点の評価を評定に換算する「青森高校」「鳳高校」の実践例を紹介

ハイスクールオンライン TOP > 「新課程」ボタンをクリック > 「生徒の学びが変わる 学習評価のこれから」より

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20210903_210009/index.html

指導 入試 進学先情報

担任 > 教科 > **一般選抜
学校推薦・
総合選抜** > 大学情報 >

進路 > 事例検索 > 受験・就職
レポート > 専門学校 >

VIEWnext
高校・大学
教育情報 > **新課程** >

🕒 2021.09.03

生徒の学びが変わる 学習評価のこれから

来る2022年度の新課程1期生入学に向けて、2021年度に準備・検討すべき内容に関するセミナーを企画いたしました。第5回のテーマは、『生徒の学びが変わる 学習評価のこれから』です。青森県立青森高等学...

📁 指導と学習評価

📅 イベント

青森高校

3観点のうち、思考力・判断力・表現力に重みづけ

評点換算表を作成し、AAAが100点になるように配点 評点換算と評定が対応

「学習評価」を「評定」へ落とし込む「仕組み」案（5）

観点別評価→評点化方式

明瞭性 妥当性 実行可能性

※観点別評価の総合換算の方式等は今後変更になる可能性があります。

観点	評点	評定	思考・判断・表現/知識・技能/主体性
100	5	AAA	
95	5	AAB ABA	
90	5	ABB BAA	
85	4	BAB BBA AAC	

評点換算表

観点	評価	評点	評価	評定
思考・判断・表現	A	50	B	40
知識・技能	A	25	B	20
主体性	A	25	B	20

3観点のうち、「思考・判断・表現」に重みづけをし算表を設計、AAA=100点になるように配点を...

4. 学年末の評定への総括方法①（総括的達成状況の平均から総括する方法）

・各観点の総括的達成状況0～100%の平均に基づいて算出する。
※各観点の総括的達成状況＝各観点の1～3学期の達成状況の平均

【総括的達成状況と評定の対応表】

総括的達成状況の平均	評定	参考
100		
95～99	5	5
90～94		
85～89	A	A
80～84		
75～79		
70～74	4	4
65～69		
60～64		
55～59	B	3
50～54		
45～49		
40～44		
35～39		
30～34	C	2
25～29		
20～24		
15～19		

※「参考」は指の手引きの例

①各観点の総括的達成状況の平均を算出

【例】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
1学期	60	50	70	
2学期	70	60	80	
3学期	80	70	90	
総括(平均)	70	60	80	70 → 4
観点別評価	A	B	A	

②対応表から換算評定

鳳高校

本日お伝えする実践例

「主体的に学習に取り組む態度」を
どう評価するか

「振り返りシート」「生徒の成果物の変容」「口頭試問」
で主体的に学習に取り組む態度を見取る実践

3 観点の評価を学習改善
どうつなげるか

全国の先進校の実践例を参考に、
柔軟に軌道修正しながら、
自校に合った評価の形を見出していきたい

「考査のタグ付け」「振り返りシート」
「活用した形成的評価」
「生徒の学習改善に活かす実践」

納得感のある評価に
どう深化させるか

「評価のオリエンテーション」
「ルーブリックの改善」「評定の再検討」
で先生・生徒の納得感のある評価へ近づける実践

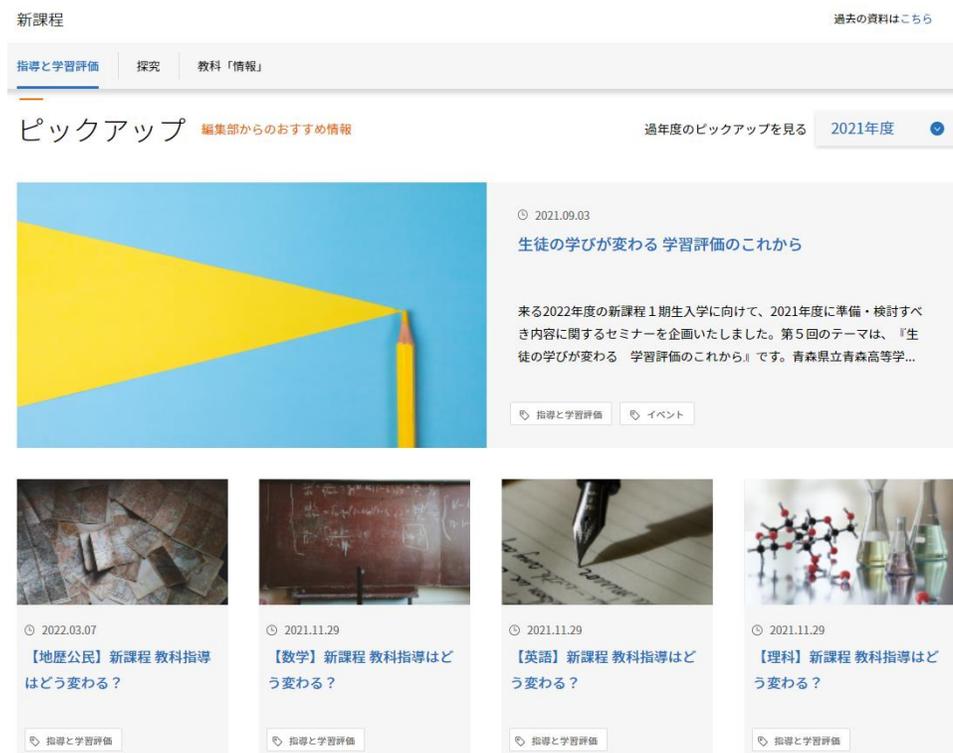
- ①ブラウザで「ハイスクールオンライン」を検索
- ②ハイスクールオンライン TOPへログイン
- ③画面を下にスクロールし、
「新課程」ボタンをクリック



指導	入試	進学先情報
担任 >	NEW 一般選抜 学校推薦・ 総合選抜 >	大学情報 >
進路 >	受験・就職 レポート >	専門学校 >
VIEWnext 高校・大学 教育情報 >	新課程 >	

④各コンテンツをクリックしてご覧ください！

※画面イメージは変更になる可能性がございます。



新課程 過去の資料はこちら

指導と学習評価 探究 教科「情報」

ピックアップ 編集部からのおすすめ情報 過年度のピックアップを見る 2021年度

2021.09.03
生徒の学びが変わる 学習評価のこれから

来る2022年度の新課程1期生入学に向けて、2021年度に準備・検討すべき内容に関するセミナーを企画いたしました。第5回のテーマは、『生徒の学びが変わる 学習評価のこれから』です。青森県立青森高等学...

指導と学習評価 イベント

2022.03.07
【地歴公民】新課程 教科指導は
どう変わる？

指導と学習評価

2021.11.29
【数学】新課程 教科指導はど
う変わる？

指導と学習評価

2021.11.29
【英語】新課程 教科指導はど
う変わる？

指導と学習評価

2021.11.29
【理科】新課程 教科指導はど
う変わる？

指導と学習評価

イベントアーカイブ、先生インタビュー、解説資料など
新課程に関する情報を多数掲載しております！

An open notebook is shown from a top-down perspective. The right page features a calendar grid with dates from 19 to 29. The left page has a graph with a curve. The notebook is open on a wooden surface.

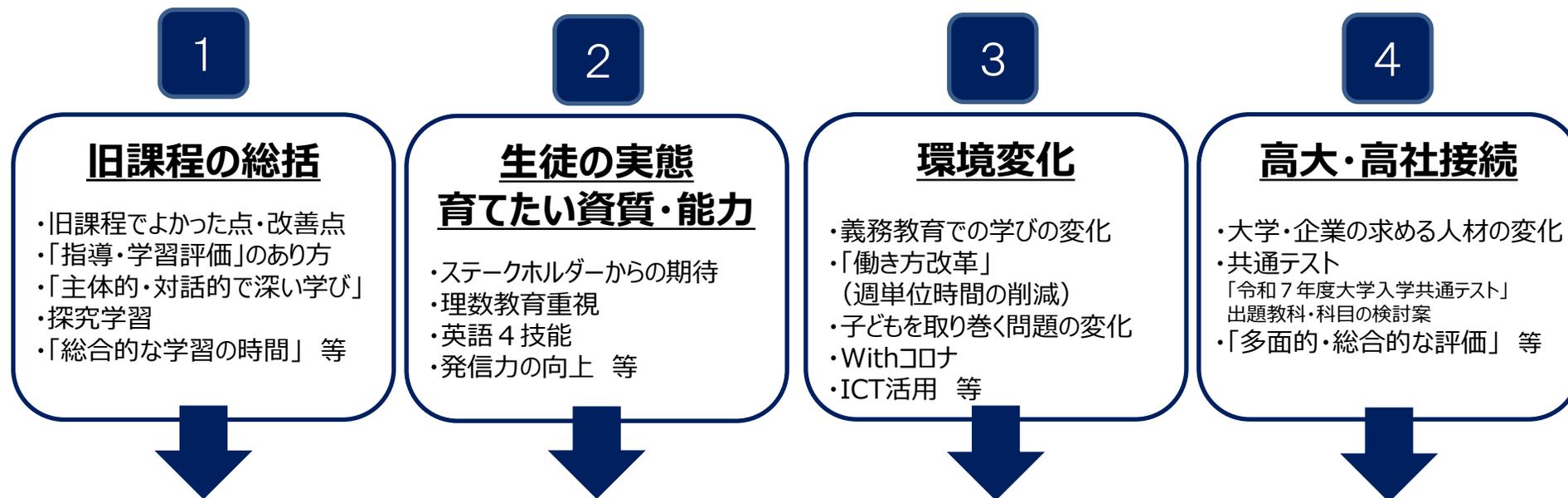
新課程の全体像・新課程入試・

新課程進路指導

旧課程生		新課程生		
2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)
小学校新課程	中学校新課程	高等学校新課程→		
高3	高3	高3	高3	高3
高2	高2	高2	高2	高2
高1	高1	高1	高1	高1
大学入学共通テスト開始	【夏頃予定】 「新学習指導要領に 対応した実施要項の 見直しに関わる予告」	各大学から選抜予告		【夏頃予定】 「令和7年度大学入学 者選抜実施要項」発表 新課程入試（2025年 度）
【秋～3月】 新教育課程編成仮案 策定 ↓ 教育委員会へ提出	【5～6月】 検定済教科書見本 ↓ 新教育課程編成案策定 【6～7月】 教科書採択 【10月】 指導書	新教育課程編成案 微調整 学習指導要録改訂 観点別学習状況評価 の記載必須	新教育課程編成 微調整	新教育課程編成 微調整
指導の在り方・評価の在り方の 校内での検討		指導要録変更に伴い、 観点別状況の評価の記載		調査書変更

新教育課程の編成方針は、各学校の「カリキュラム・マネジメント」の一部であり、新学習指導要領を踏まえたうえで、主に下記の4つの点から検討されている。

また、必履修科目が増えるなかで、「働き方改革」や「生徒に時間を返す」という動きもあり、週単位の単位数は減らす方向で検討している学校も多い。



各学校でのカリキュラム・マネジメント

新教育課程の編成方針・工夫

「学校設定科目」、「必履修科目の配当年次」、「国語の選択」、「公共の配当年次」、「情報の配当年次」、「教科横断」、「総合的な探究の時間」、「文理選択の時期の見直し」、「2期制/単位制への移行」、「1コマの時間数の変更」等

教科	グループ	出題科目	試験時間
国語		『国語』	90分
地理歴史		『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合、歴史総合、公共』	1科目選択 60分 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分)
公民		『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合、歴史総合、公共』(再掲)	
数学	①	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』	70分
	②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』	70分
理科		『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』 『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	1科目選択 60分 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分)
外国語		『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』 ※『英語』については、ICプレーヤーを使用する試験も実施。	80分 【ICプレーヤーを使用する試験】 60分 (うち解答時間 30分)
情報		『情報Ⅰ』	60分

現行の80分から10分延長

出題範囲に数学Cが含まれ、
選択回答数が2から3へ増加
試験時間も現行の60分から
10分延長

新設教科となる「情報Ⅰ」の試験時間は60分

出題教科・科目		着目ポイント・論点																		
国語		出題範囲が必履修科目「現代の国語」「言語文化」に。 大問構成がどうなるのか？については未定。																		
数学	①「数学Ⅰ」 ②「数学Ⅰ・数学A」 ③「数学Ⅱ・数学B・ <u>数学C</u> 」	<p>数学Ⅱ・数学Bに加え、<u>数学C</u>がセットに。 文系の生徒にも「<u>数学C</u>」の履修が必要になるか。</p> <p>・「数学B」の2項目の内容（数列、統計的な推測）及び「数学C」の2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）に対応した出題となり、このうち3項目の内容の問題を選択するようになる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>数学Ⅱ</th> <th>数学B</th> <th>数学C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①いろいろな式</td> <td>①数列</td> <td>①ベクトル</td> </tr> <tr> <td>②図形と方程式</td> <td>②統計的な推測</td> <td>②平面上の曲線と複素数平面</td> </tr> <tr> <td>③指数関数・対数関数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④三角関数</td> <td>③数学と社会生活</td> <td>③数学的な表現の工夫</td> </tr> <tr> <td>⑤微分・積分の考え</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※「数学C」には、「ベクトル」（現行では数B）と「平面上の曲線と複素数平面」（現行では数学Ⅲ）が入る。</p>	数学Ⅱ	数学B	数学C	①いろいろな式	①数列	①ベクトル	②図形と方程式	②統計的な推測	②平面上の曲線と複素数平面	③指数関数・対数関数			④三角関数	③数学と社会生活	③数学的な表現の工夫	⑤微分・積分の考え		
数学Ⅱ	数学B	数学C																		
①いろいろな式	①数列	①ベクトル																		
②図形と方程式	②統計的な推測	②平面上の曲線と複素数平面																		
③指数関数・対数関数																				
④三角関数	③数学と社会生活	③数学的な表現の工夫																		
⑤微分・積分の考え																				
地理 歴史 公民	①「地理総合、地理探究」 ②「歴史総合、日本史探究」 ③「歴史総合、世界史探究」 ④「公共、倫理」 ⑤「公共、政治・経済」 ⑥「地理総合、歴史総合、公共」	<p><u>地歴公民は6科目から最大2科目選択。</u> <u>必履修科目3科目の⑥が新設のため注目。</u></p> <p>・「地歴・公民」は、「必履修3科目」や「必履修＋選択」を組み合わせた6科目（最大2科目の内容を選択）。</p> <p>・必履修科目のみの⑥「地理総合、歴史総合、公共」という組み合わせが新設。3科目から2科目選択。同じ科目のつくパターンは受験できないので注意が必要。 （例）⑥で歴史総合を選択したら、2科目めとして②③は受験できない</p>																		
情報		出題範囲は、 <u>共通必履修科目の「情報Ⅰ」。</u> <u>CBT方式が適当としつつ、初年度は諸般の事情よりマークシート式を検討。</u>																		

地歴公民においては、選択できない組み合わせがあるため注意が必要。

	『地理総合、 地理探究』	『歴史総合、 日本史探究』	『歴史総合、 世界史探究』	『地理総合、歴史総合、公共』			『公共、 倫理』	『公共、 政治・経済』
				「地理総合」 及び 「歴史総合」	「地理総合」 及び 「公共」	「歴史総合」 及び 「公共」		
『地理総合、 地理探究』		○	○	×	×	○	○	○
『歴史総合、 日本史探究』	○		○	×	○	×	○	○
『歴史総合、 世界史探究』	○	○		×	○	×	○	○
『地理総合、 歴史総合、 公共』	「地理総合」 及び 「歴史総合」	×	×	×			○	○
	「地理総合」 及び 「公共」	×	○	○			×	×
	「歴史総合」 及び 「公共」	○	×	×			×	×
『公共、倫理』	○	○	○	○	×	×		×
『公共、政治・経済』	○	○	○	○	×	×	×	

※上記6出題科目のうちから2出題科目を選択する場合は、「○」の組合せから選択でき、「×」の組合せは選択できない。

※令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト
実施大綱の予告（2021年7月30日）より

新課程生向け

情報Ⅰ

試験時間

60分

- ・出題科目は『情報』の1科目とする
- ・『情報』は「情報Ⅰ」の内容を出題範囲とする
- ・情報で一つの試験時間帯とする
- ・令和4年度秋冬頃試作問題（配点付き）を作成予定
- ・『旧情報（仮）』と得点調整の対象となる

現行課程生向け

旧情報（仮）

- ・現行課程生に向けた経過措置科目『旧情報（仮）』
- ・現行課程「社会と情報」及び「情報の科学」の内容を出題範囲とする
- ・『旧情報（仮）』も試作問題（配点付き）を作成予定
- ・「社会と情報」、「情報の科学」のどちらを履修していても不利益が生じないよう、両科目の共通部分に対応した必答問題を出題
- ・加えて、それぞれの科目に対応した問題を出題し選択解答

得点調整の対象

同一教科の科目間の試験問題の平均点差による不公平感や混乱等を緩和するため、対象科目間で20点差以上の平均点差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合に、得点調整を行ってきたものである。
(令和7年度共通テストにおける得点調整の対象教科・科目の考え方より抜粋)

※大学入試センター 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する検討状況について https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou.html

【別添1】令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告 【別添2】令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）

【別添3】令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト「情報」の出題方法について 【別添4】令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおける得点調整の対象教科・科目についてを参考にベネッセコーポレーションで作成



2022年1月28日

国立大学協会は、 「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」を公表

よって、2024年度に実施する入学者選抜から、全ての国立大学は、「一般選抜」
においては第一次試験として、高等学校等における基礎的教科・科目についての
学習の達成度を測るため、原則としてこれまでの「5教科7科目」に「情報」を加
えた6教科8科目を課す。

なお、2024年度に実施する入学者選抜での経過措置問題を含む「情報Ⅰ」の活
用の方法等について、各大学は、速やかにホームページを活用して公表するなど、
受験生に対して十分な説明を行う。

2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度-国立大学協会の基本方針-
(2) 大学入学共通テスト6教科8科目の原則より引用

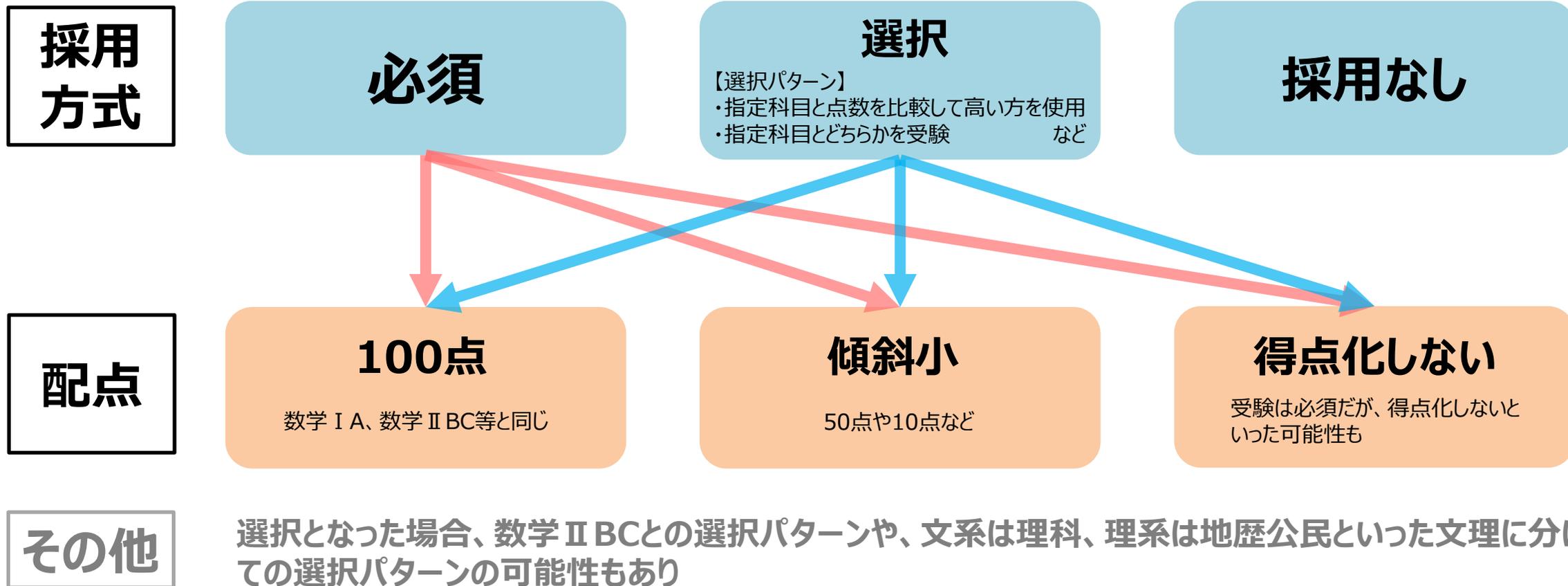


今後のスケジュール

2022年度秋冬頃	各教科・科目の問題作成の方向性（地理歴史、公民、数学、情報の試作問題を含む）の公表【センター】
2022年度中	大学入学共通テスト利用教科・科目の予告【各大学】
2023年6月頃	「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」の公表【文部科学省】（予告した出題教科・科目等を含む試験の実施方針） 「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び問題作成方針」の公表【センター】 （経過措置を含めた出題方法、科目選択の方法など）
2024年6月頃	「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」の公表【センター】（出願方法、時間割など）

※大学入試センター 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する検討状況についてを参考にベネッセコーポレーションで作成

予想される国立大学における共通テスト「情報Ⅰ」の取り扱いの方向性とパターン



※ベネッセコーポレーションで作成

共通テストにおける教科「情報Ⅰ」の取扱いは各大学から2022年度中に公表される予定

- 「情報Ⅰ」を利用する（配点や科目選択の方法などの詳細は令和4年度中に公表予定）
 ○地歴公民は「地理総合、歴史総合、公共」を除く科目を利用する

1 令和7年度大学入学共通テスト（令和7年1月実施）から、新学習指導要領に対応した出題教科・科目に変更されることに伴い、本学の利用教科・科目については次のとおりとします。

教科	科目
国語	『国語』
地理歴史	『歴史総合，日本史探究』，『歴史総合，世界史探究』，『地理総合，地理探究』
公民	『公共，倫理』，『公共，政治・経済』
数学	グループ① 『数学Ⅰ，数学A』 グループ② 『数学Ⅱ，数学B，数学C』
理科	『物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎』 『物理』，『化学』，『生物』，『地学』
外国語	『英語』，『ドイツ語』，『フランス語』，『中国語』，『韓国語』
情報	『情報Ⅰ』

※東京大『平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学入学選抜大学入学共通テストの東京大学における利用教科・科目の予告について』（2022年3月26日）より

○全学部的一般選抜および総合型選抜・学校推薦型選抜で「情報Ⅰ」を必須に

令和7年度入学者選抜における試験教科・科目を公表

— 全学部 大学入学共通テストでの「情報Ⅰ」の受験を必須に —

本学では、高等学校等の新学習指導要領移行後、最初の実施となる令和7年度入学者選抜における大学入学共通テスト受験指定教科・科目ならびに個別学力検査の実施科目・教科を公表しました。

日本で初めて設置された「情報工学部」を擁する国立大学として、「情報を使いこなす力」を養う情報教育の進展に資するべく、全国立大学に先がけて公表したものです。

ポイント

- ① 全学部(工学部・情報工学部)で大学入学共通テスト「情報Ⅰ」を受験科目に指定
- ② 令和7年度入学者選抜では、一般選抜を含め個別学力検査の出題科目に「情報」は追加しない
- ③ (合わせて公表した変更) 英語資格・検定試験の利用方法を「加点方式」から「置き換え方式」へ変更

※九州工業大『令和7年度入学者選抜（令和6年度実施）における変更点について』（2022年3月25日）より

試作問題(検討用イメージ)

2020年12月2日

・情報処理学会ホームページにて大学入試センターより提供されたものが公開

「情報」試作問題(検討用イメージ)

<https://www.ipsj.or.jp/education/9faeag0000012a50-att/sanko2.pdf>

情報 サンプル問題

2021年3月24日

・大学入試センターより『地理総合』、『歴史総合』、『公共』、『情報』のサンプル問題を公開

平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学入学共通テストからの出題教科・科目 情報 サンプル問題

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040342.pdf&n=12>

令和7（2025）年度大学入学共通テストではどうなる？ サンプル問題「情報」を分析しました

公開中

<https://www.p-pras.com/basic/news/02.html>

サンプル問題『情報』分析



株式会社ベネッセコーポレーション

1 はじめに

この分析は、令和3年3月24日に独立行政法人 大学入試センターより公表されたサンプル問題『情報』について、高等学校の先生方のご協力を得てベネッセコーポレーションで作成したものです。分析例の一つとしてご参考にしていただければ幸いです。大学入試センターからは、問題と合わせて問題についてのねらいも発信されています。

独立行政法人 大学入試センター、「令和7年度以降の試験」
https://www.dnc.ac.jp/kyoto/dshken_jinhou/7kou.html

2 全体について

<概要・傾向>

前回のサンプル問題とは異なり、教科書の内容を確実に理解していることが正解への最短ルートになるような設計になっている。

レベルとしてはそれほど高いものではないが、しっかりと読みこなす力が必要である。各選択肢がどの用語のことを言っているのか、問題は何について聞いているのかという意識をもって文脈や選択肢を読み解いていく力とともに、スピード感をもって解く力も求められるだろう（今回は時間については与えていないという点だが、基本的に60分程度と予想される）。全体を通じて、教科『情報』の基礎的な知識、またその知識をもとに日常での出来事に結びつけて考えとることが求められる。

第1問の教科書レベルの用語の理解を問う設問は、基礎的な知識につき、得点源として期待と考えられる。また第2問のプログラミング、第3問のデータの分析・活用は、情報Ⅰに改訂される際の分野として非常に注目されている単元である。プログラミングは難しい問いもあるもので、しっかりと演習をして慣れておく必要がある。

<問題が解けるようになるために>

基本的に用語の定義について聞いている問題は少なく、用語のその先を聞いていることが多い。ただ用語を単発で覚えるのではなく関連性をもって覚えること、注意点や特徴などその周辺の内容も含めて多方面から理解しておかなければならない。データの活用分野では、数学科の「データの分析」などと連携して取り組む必要があり、データの見方・考え方を演習しておくこと、プログラミングでは、自分が作ったプログラムと人が作ったプログラムを比べてみるなど、適不足なくよいプログラムをめざして試行錯誤していくと演習にもつながる。

©Benesse Corporation

調査書は両面1枚の様式に戻る。

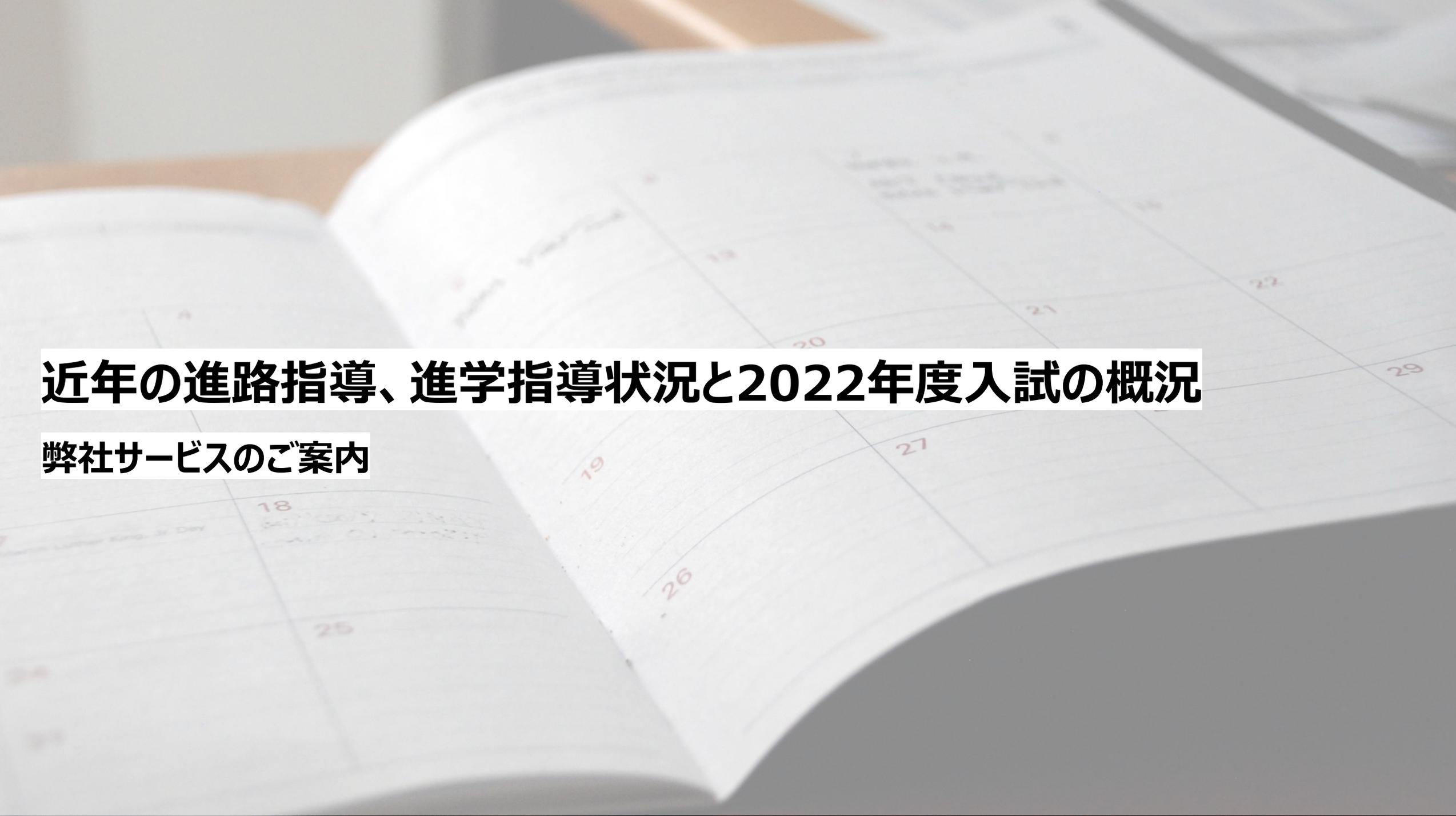
「別紙様式1(調査書)」について

- 調査書は指導要録に基づき作成する原則や、学校の働き方改革を受けた教員の負担軽減の観点も踏まえて、簡素化された新しい指導要録の参考様式に合わせて、例えば「7. 指導上参考となる諸事項」の欄を簡素化するなどの様式の見直しを行うとともに、枚数は表裏の両面1枚とする。

令和7年度大学入学者選抜実施要項見直しイメージ(案)より抜粋

- 4 調査書は、日本産業規格A4判(210×297mm)上質紙(57.5kg程度)とし、表裏の両面1枚を使って作成すること。
- 1.3 「指導上参考となる諸事項」の欄には、指導要録と同様に、要点を簡条書きするなど、その記載事項を必要最小限にとどめることとする。
その際、生徒の特徴・特技や学校外の活動等については、原則として、学習指導等を進めていく上で必要な情報として精選して指導要録に記述された内容を基に記入することとする。

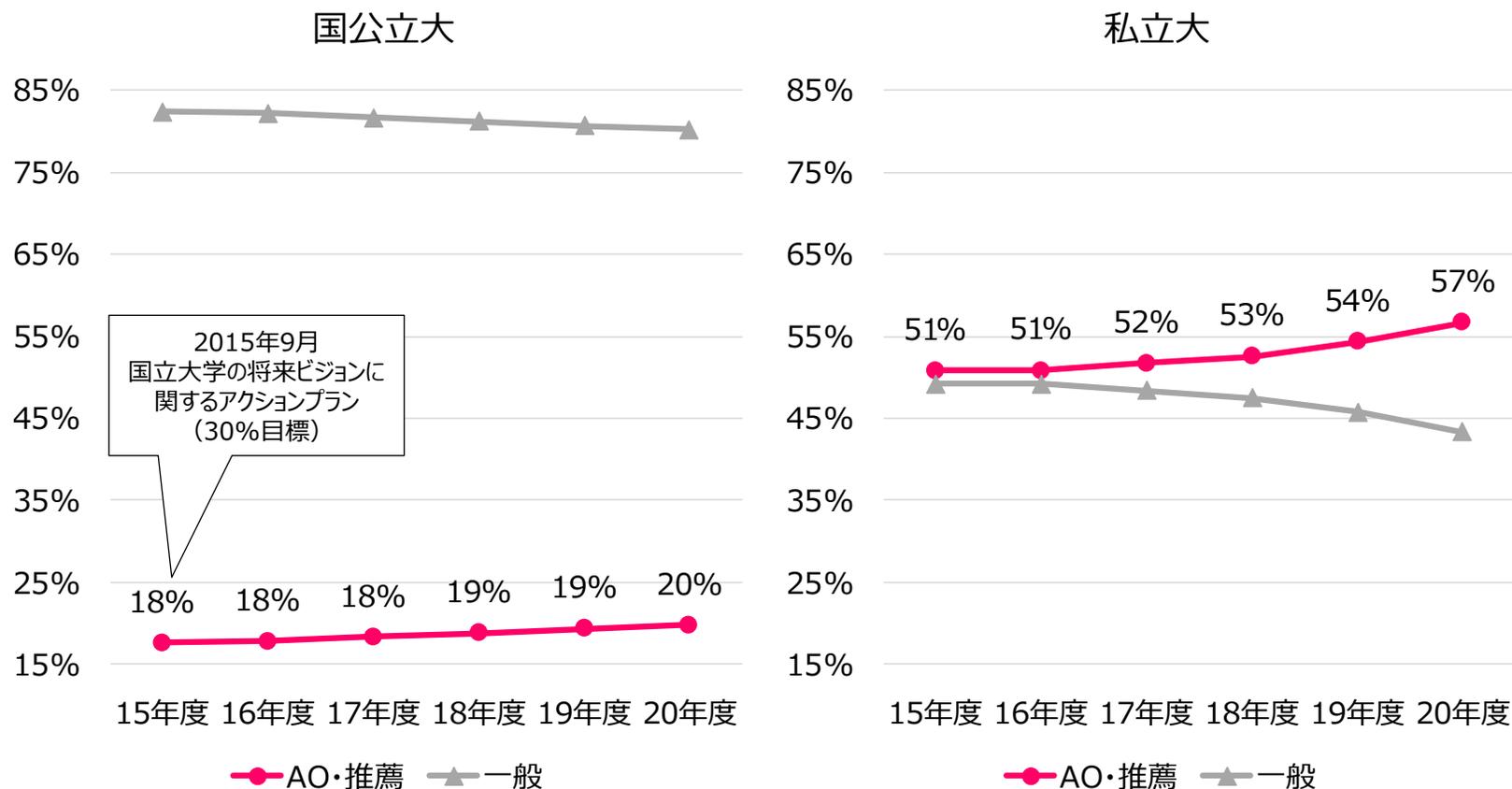
※「令和7年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」(2021年7月30日)より



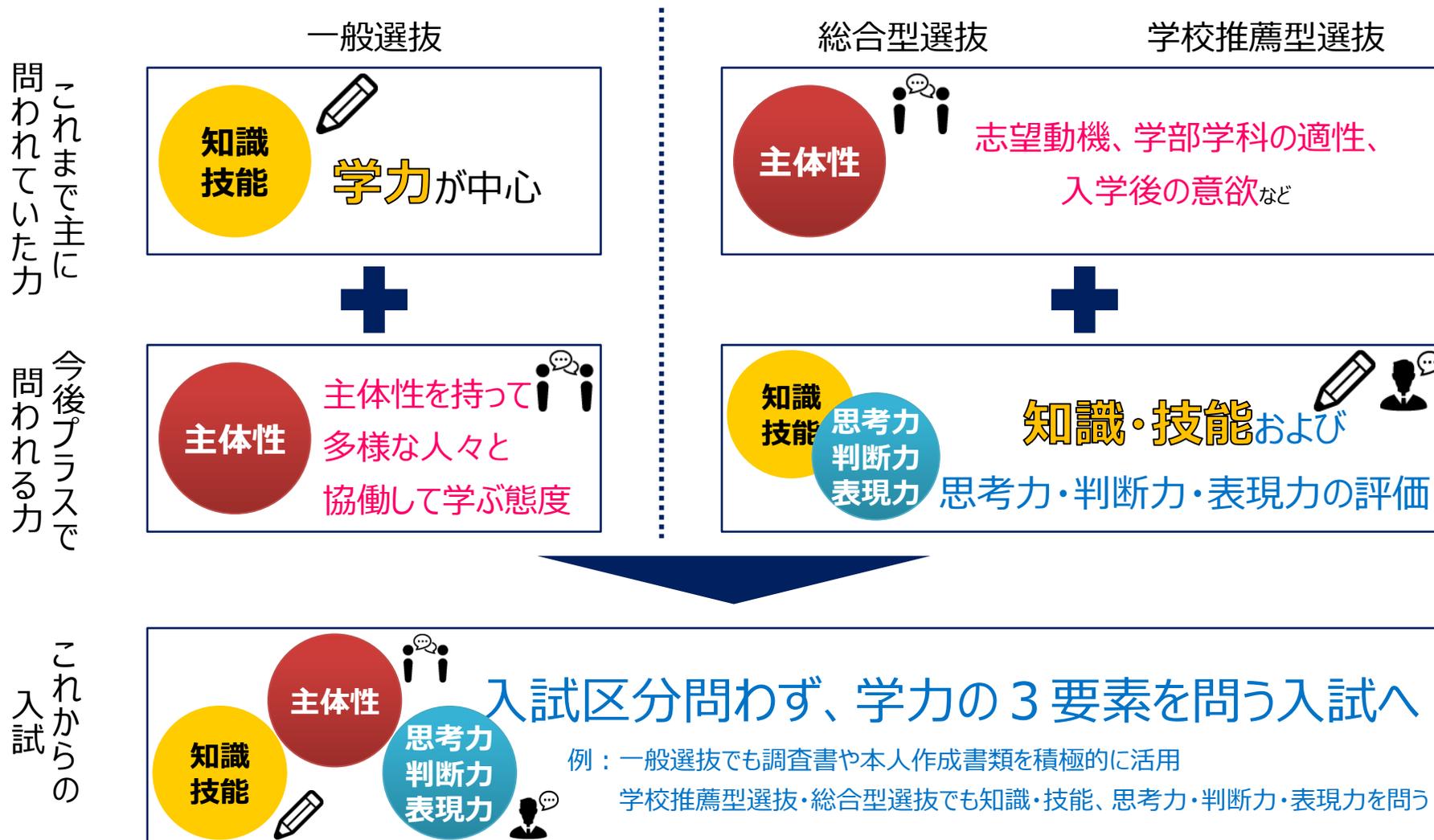
近年の進路指導、進学指導状況と2022年度入試の概況

弊社サービスのご案内

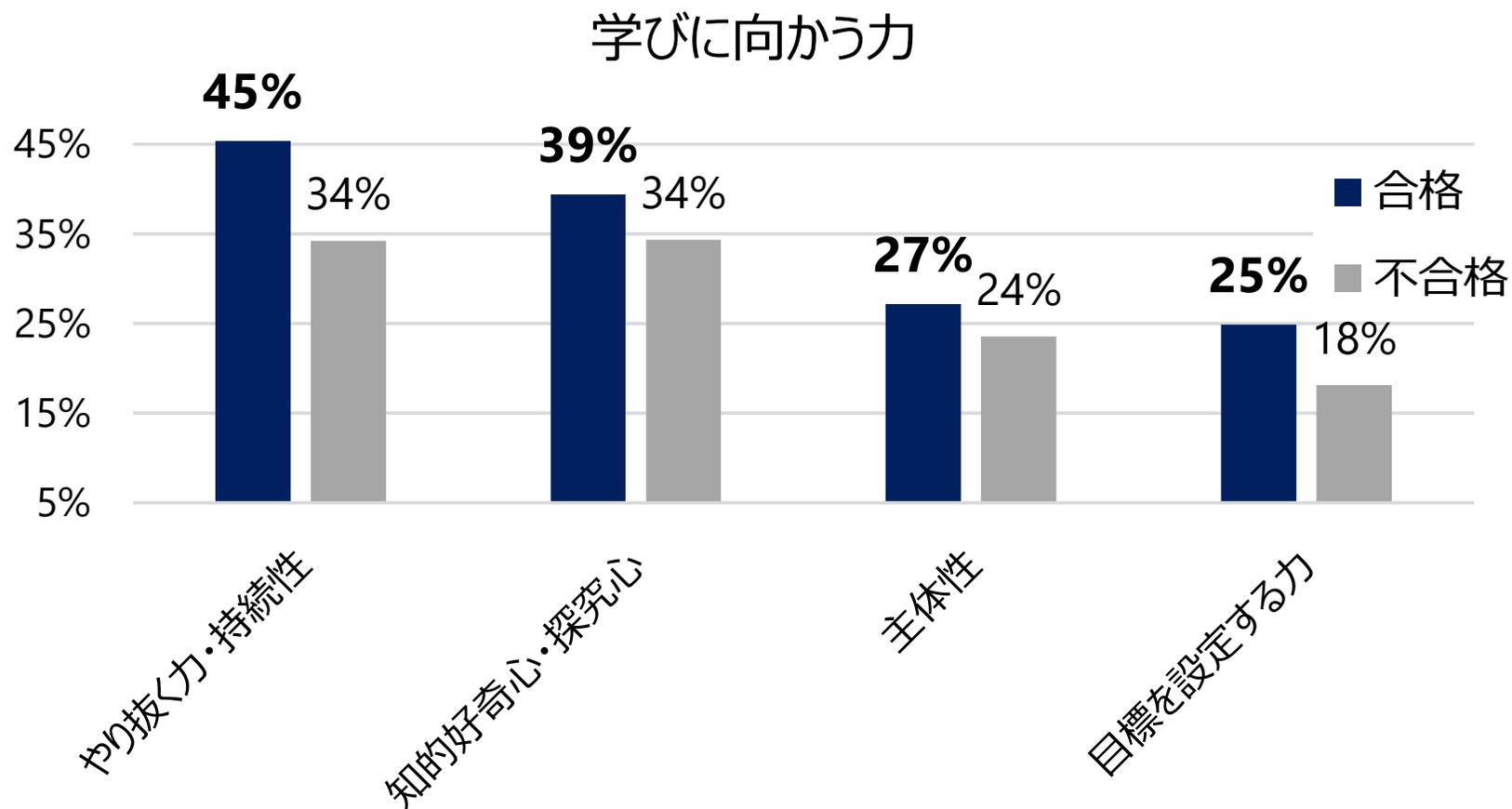
私立大では、AO・推薦入試による入学者が半数以上を占め、近年は一般入試との差が広がっている。



大学入試改革によって、一般選抜でも学校推薦型選抜・総合型選抜でも、知識・技能に加えて思考力・判断力・表現力、学びに向かう力が問われる時代に。



合格者の中には、高校生活において自ら行動した経験や、そこから学び、強みを得た生徒が多いことが考えられる。



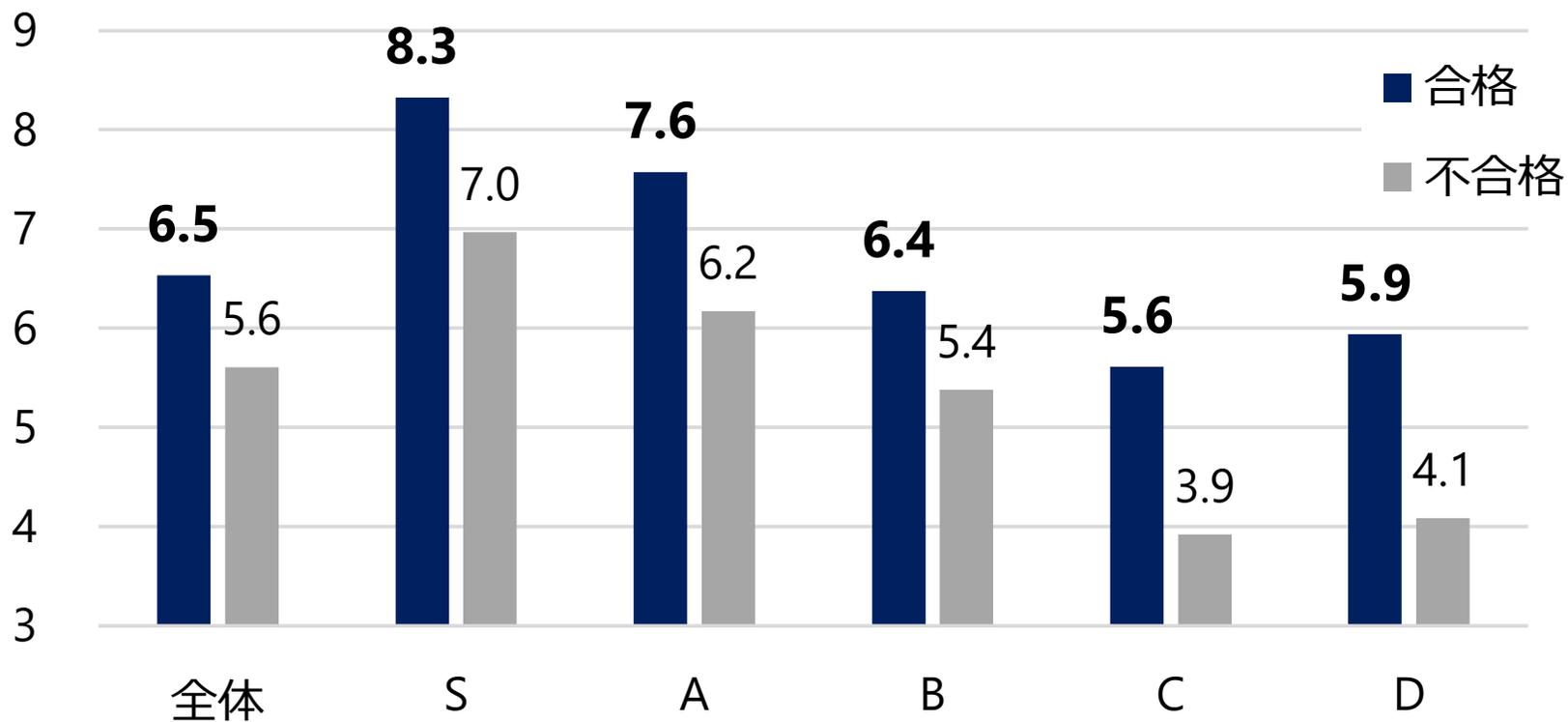
※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合否を判別できる8569人。

※上記のデータは、強みを選択する設問の中で29項目のうち1個以上選択した生徒5472人を集計している。

※合格者と不合格者の強みの数を比較して、t検定を用いて5%水準で有意に差が見られた項目を掲載している。

合格者は不合格者よりも自分の強みをより多く認識している。
特に、C・Dゾーンの合否間で大きな差が見られる。

生徒が認識している強みの数



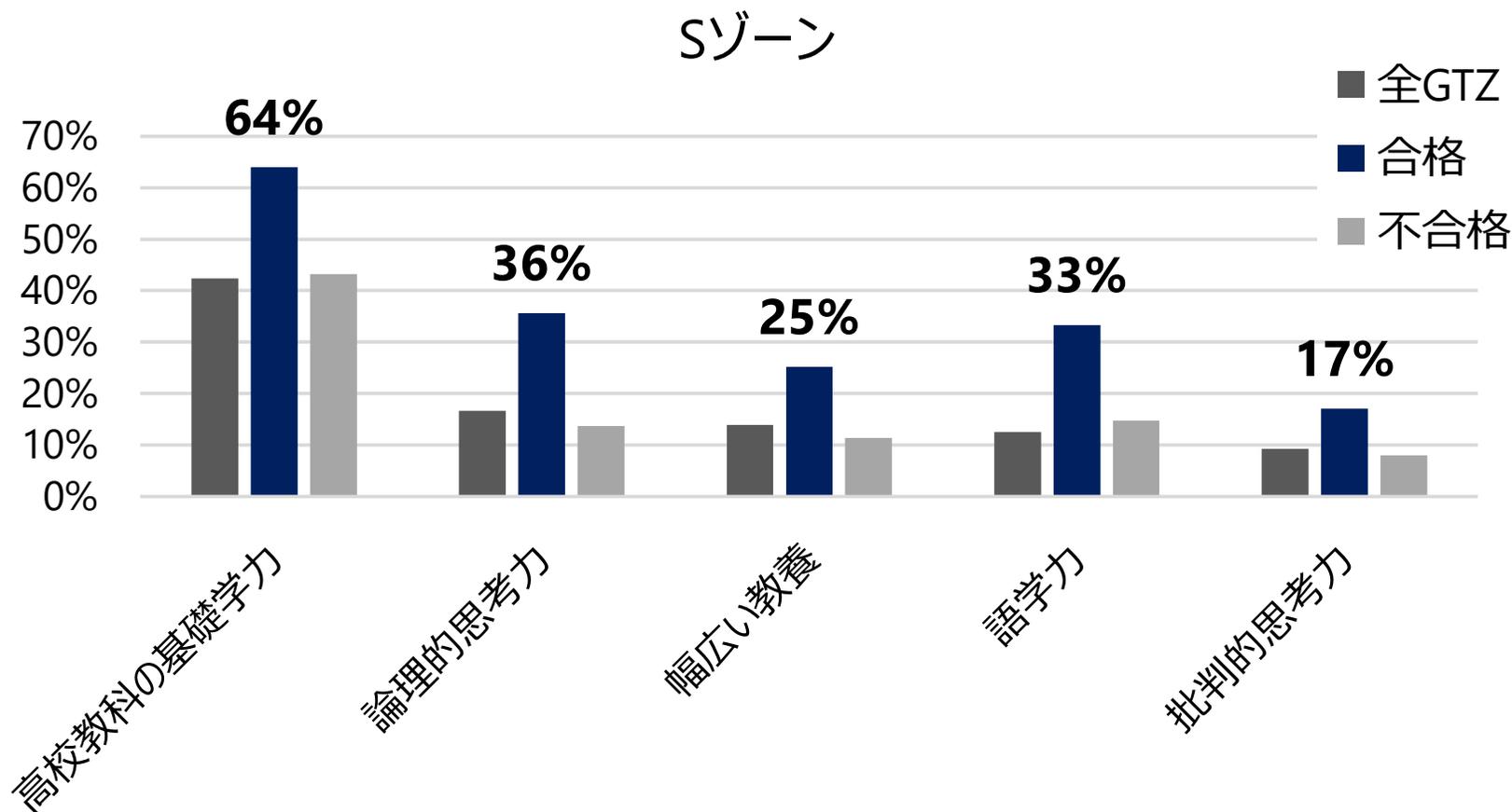
※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合否を判別できる8569人。

※GTZは、2020年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試における各大学の判定値（国公立大はB判定、私立大はC判定）をもとにしている。

※上記のデータは、強みを選択する設問の中で29項目のうち1個以上選択した生徒5472人を集計している。

※合格者は不合格者と比較して、5%水準で有意に多くの強みを認識していることが検定で認められた。

Sゾーン合格者は、周囲が認識しづらい力を強みにして差別化につなげている可能性が考えられる。



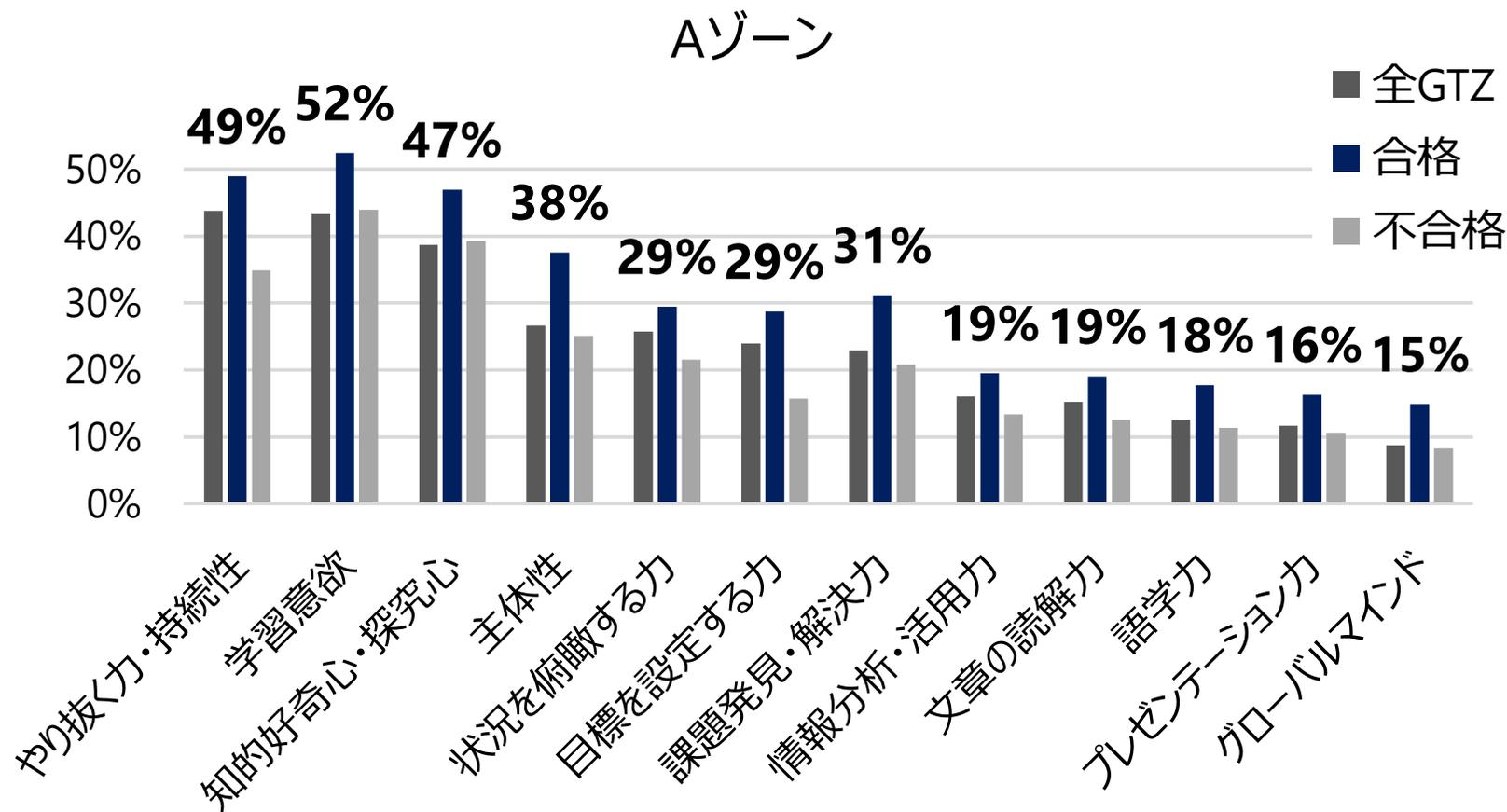
※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合否を判別できる8569人。

※GTZは、2020年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試における各大学の判定値（国公立大はB判定、私立大はC判定）をもとにしている。

※上記のデータは、強みを選択する設問の中で29項目のうち1個以上選択した生徒のうち、Sゾーン346人を集計している。

※上記の5項目において、合格者と不合格者が選択した割合は5%水準で有意な差があることがt検定で認められた。

多くの生徒が強みにあがる力と 認識しづらい力の両方で、合否の差が見られる。



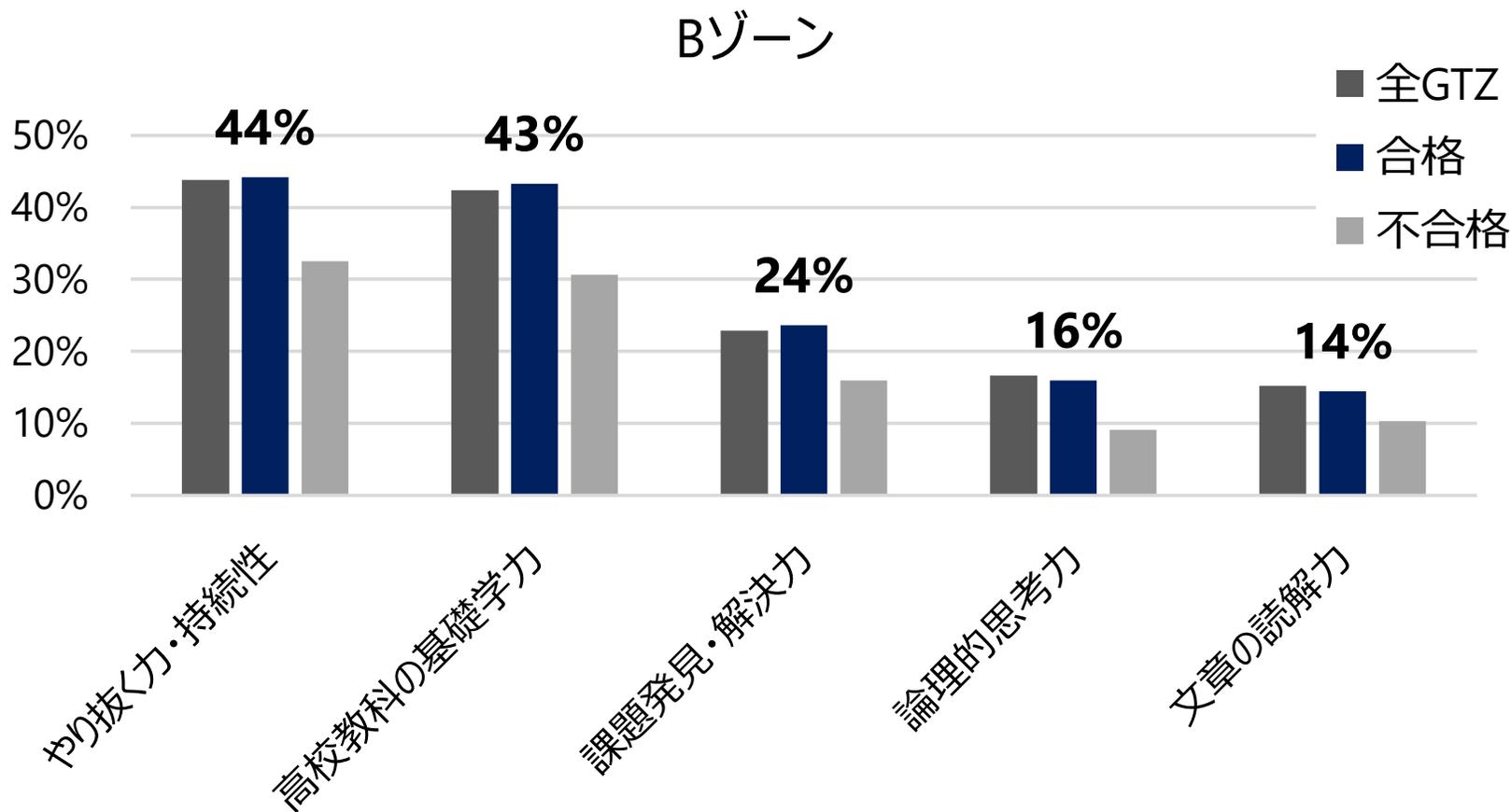
※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合否を判別できる8569人。

※GTZは、2020年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試における各大学の判定値（国公立大はB判定、私立大はC判定）をもとにしている。

※上記のデータは、強みを選択する設問の中で29項目のうち1個以上選択した生徒のうち、Aゾーン1389人を集計している。

※上記の12項目において、合格者と不合格者が選択した割合は5%水準で有意な差があることが検定で認められた。

多くの生徒が強みにあがる力において、
合否の間でより大きな差が見られる。



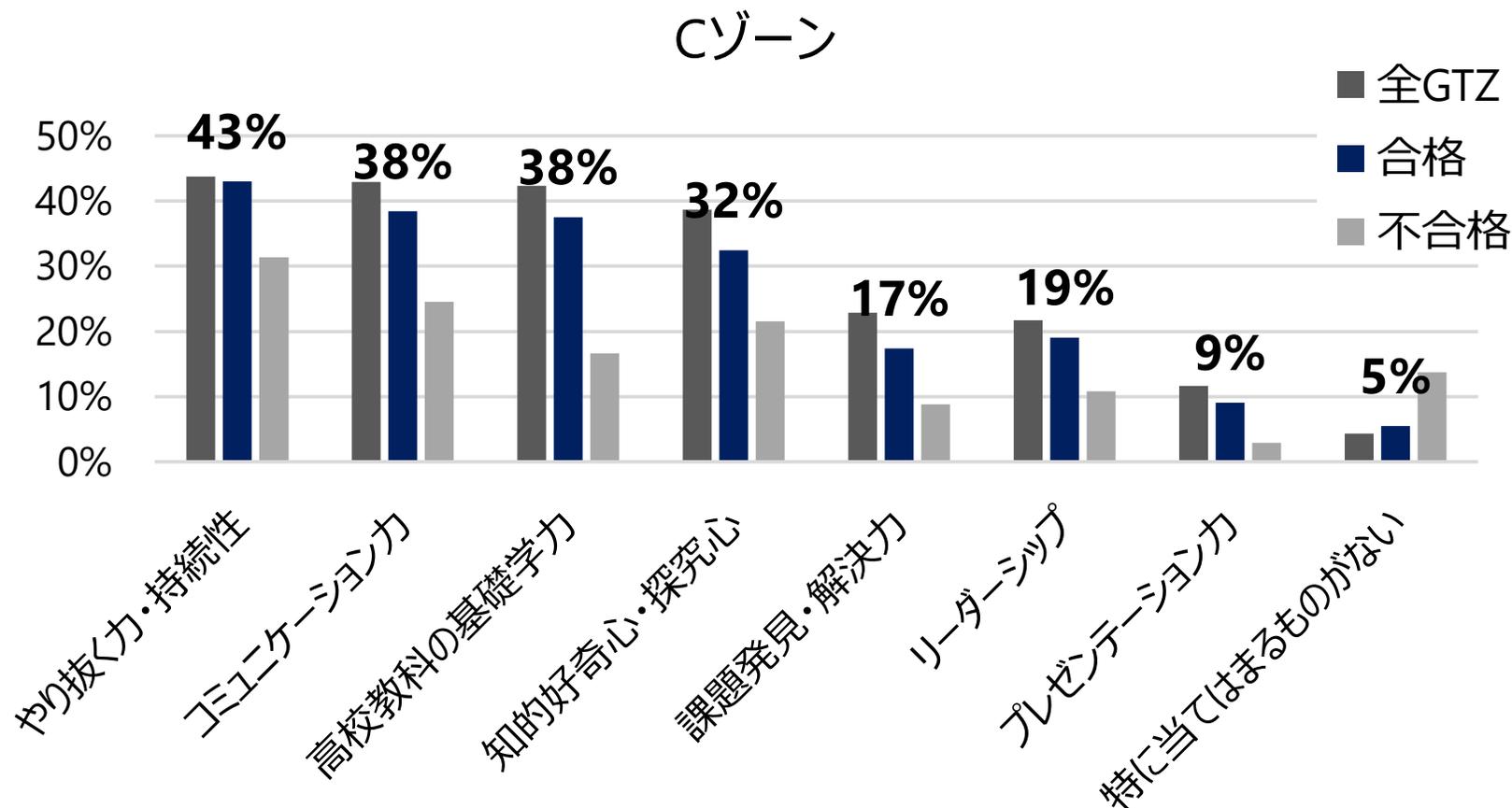
※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合否を判別できる8569人。

※GTZは、2020年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試における各大学の判定値（国公立大はB判定、私立大はC判定）をもとにしている。

※上記のデータは、強みを選択する設問の中で29項目のうち1個以上選択した生徒のうち、Bゾーン2042人を集計している。

※上記の5項目において、合格者と不合格者が選択した割合は5%水準で有意な差があることがt検定で認められた。

合格者は不合格者よりも 自分の強みを認識できている生徒が多い。



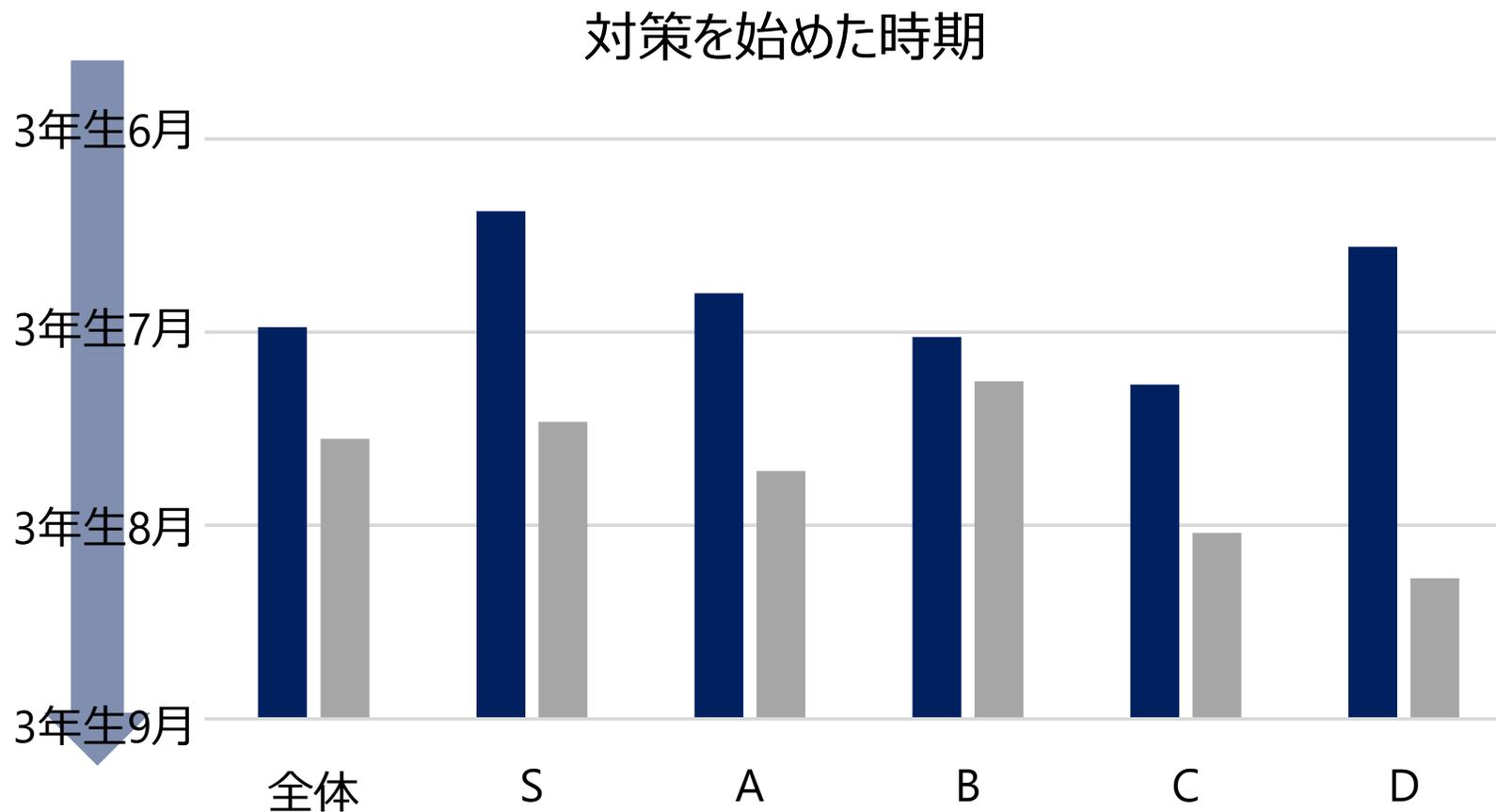
※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合否を判別できる8569人。

※GTZは、2020年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試における各大学の判定値（国立大はB判定、私立大はC判定）をもとにしている。

※上記のデータは、強みを選択する設問の中で29項目のうち1個以上選択した生徒のうち、Cゾーン1412人を集計している。

※上記の8項目において、合格者と不合格者が選択した割合は5%水準で有意な差があることが検定で認められた。

合格者は不合格者よりも時間をかけて対策を進めている。
 おおよそ3年生6月までに志望校を決定する必要がある。



※2021年度入試の受験レポートのうち、1次締切までにWEBでご提出いただいたものを分析。対象は総合型・学校推薦型選抜の合格者を判別できる8569人。

※GTZは、2020年度第1回ベネッセ・駿台共通テスト模試における各大学の判定値（国公立大はB判定、私立大はC判定）をもとにしている。

※上記のデータは、「対策を始めた時期」に回答した生徒5392人を集計している。

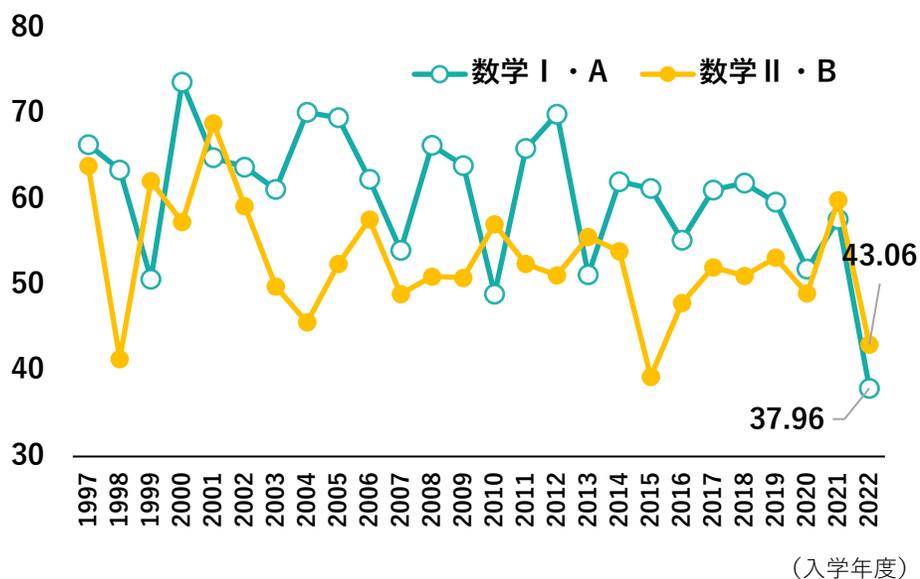
※合格者は不合格者と比較して、5%水準で有意に早期から入試の対策を開始していることがt検定で認められた。



数学を中心に大幅に平均点が低下

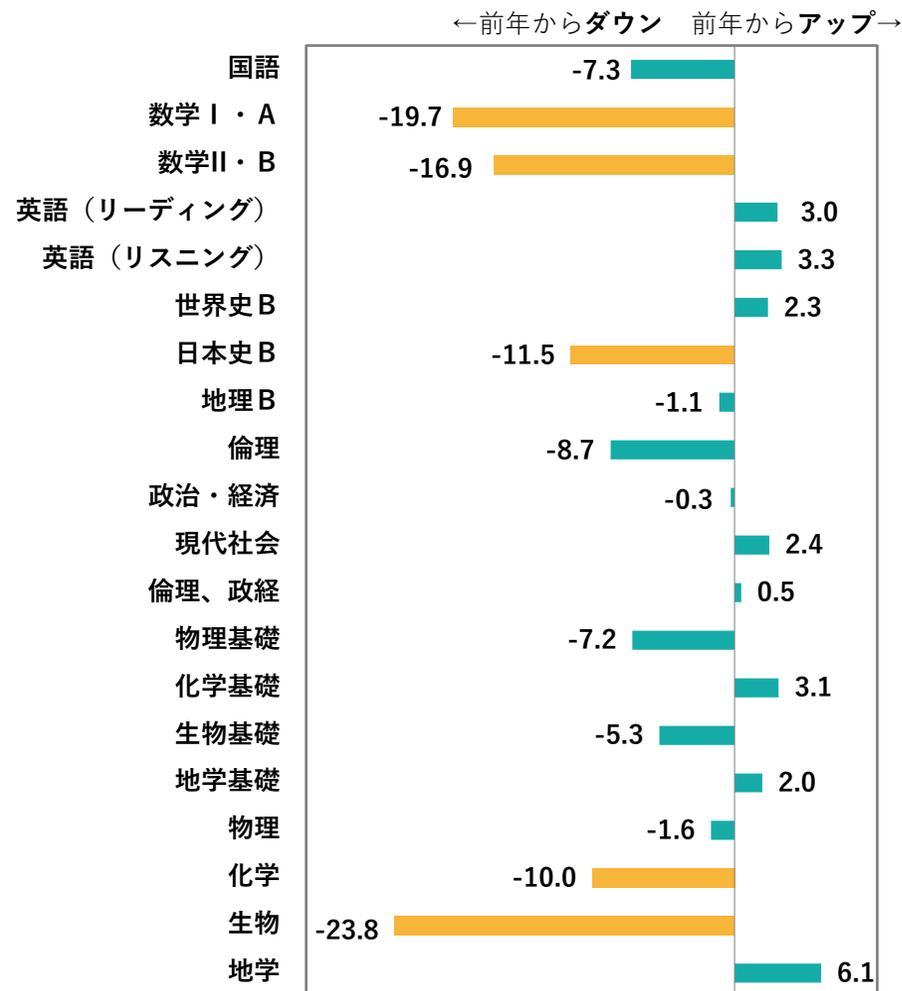
特に数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、日本史B、化学、生物などで平均点の低下が目立った。データネット実行委員会が推定した5教科900点集計の予想平均点でも、文系が508点（得点率56.4%）、理系が513点（得点率57.0%）となり、前年と比較して文系-44点、理系-59点と、どちらも大幅に低下した。

センター試験・共通テスト 数学Ⅰ・A/数学Ⅱ・B 平均点推移



* 大学入試センター公表資料をもとに作成。

共通テスト 教科別平均点の変化



* 大学入試センター公表資料をもとに作成。



共通テストの平均点の低下により、「志望変更先の検討に時間がかかった」などの出願指導における課題がみられた

共通テストの平均点が低下したことによる出願指導の課題もみられた。弊社が3月に実施させていただき、全国900校以上の学校より回答を頂戴した「新課程および教育活動全般に関する調査」によると、出願指導の課題について「志望変更先の検討に時間がかかった」、「可能性はあるのに第一志望をあきらめた、あきらめそうになった」という声が多くみられた。

2022年度入試における出願指導の課題



* 新課程および教育活動全般に関する調査（2022年3月実施）より。

「2022年度入試総括セミナー」のご案内

5月18日に実施した「2022年度入試総括セミナー」では共通テストの平均点が低下する中でも、スムーズで納得度の高い出願指導を実現されたお取り組み事例をご紹介します。

12

A 高等学校

複数回の出願シミュレーションで納得度の高い出願指導を実現



- ・ 8月から計画的に共通テストの結果に応じた出願パターンを作成
- ・ 共通テストの平均点が大幅に低下する中でも、スムーズな出願指導を実現



第1回出願指導WEB研究会の
トップページのバナーから、
資料と動画をご確認いただけます。

アーカイブ動画のご紹介

2022年度入試総括セミナー
～躍進校から学ぶ指導ポイントとは～

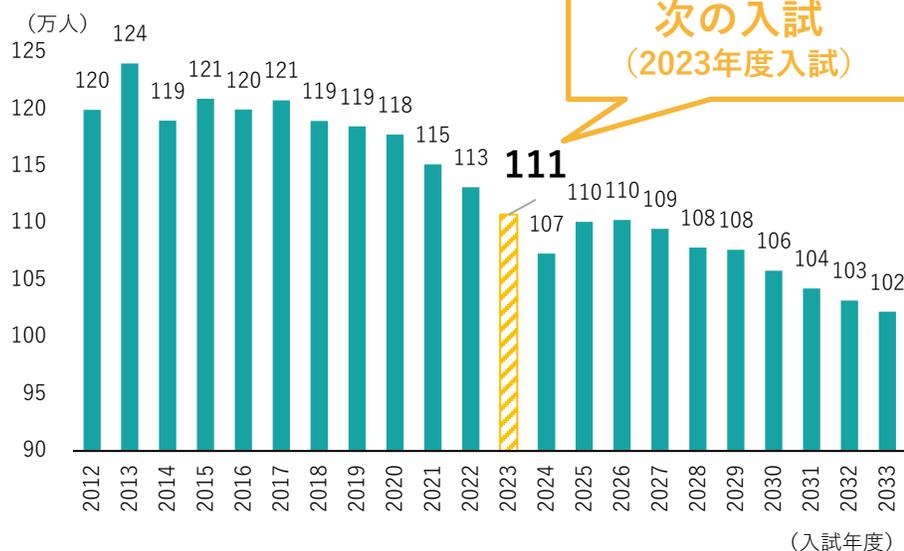


18歳人口は2021年度入試を境に減少期に入った

18歳人口の推移をみると、この6、7年は120万人前後で推移していたが、2021年度入試を境にして2024年度入試まで減少幅が大きくなる。現高校2年生が受験する2024年度入試では約107万人と予想され、2020年度入試を基準として約9%減少することになる。

次の2023年度入試では約111万人となり、前年度から約2万人減少する。一回り前の2020年度入試と比較すると、約7万人の減少となる。国立大の2022年度入試の募集人員が約9.5万人であることを考えると、減少幅の大きさがうかがえる。全体的に入試競争は緩和される傾向にあるといえよう。

18歳人口の推移



* 学校基本調査をもとに作成。



共通テスト導入を機に既卒生の減少が目立つ

2021年度入試に導入された大学入学共通テストでは移行措置がとられないこともあり、既卒生の志願者数が約2割の大幅な減少となった。これにより、現役生の合格者数が増加する傾向がみられ、2022年度入試でも既卒生が少ない状況が続くこととなった。先を見れば2025年度入試が新課程におけるはじめての入試となり、このタイミングでも既卒生は減少すると見込まれる。既卒生が増えにくい環境が続いていくこととなり、現役生中心の入試傾向は強まっていくと予想される。

共通テスト（センター試験）既卒生の志願状況



* 大学入試センター公表資料をもとに作成。

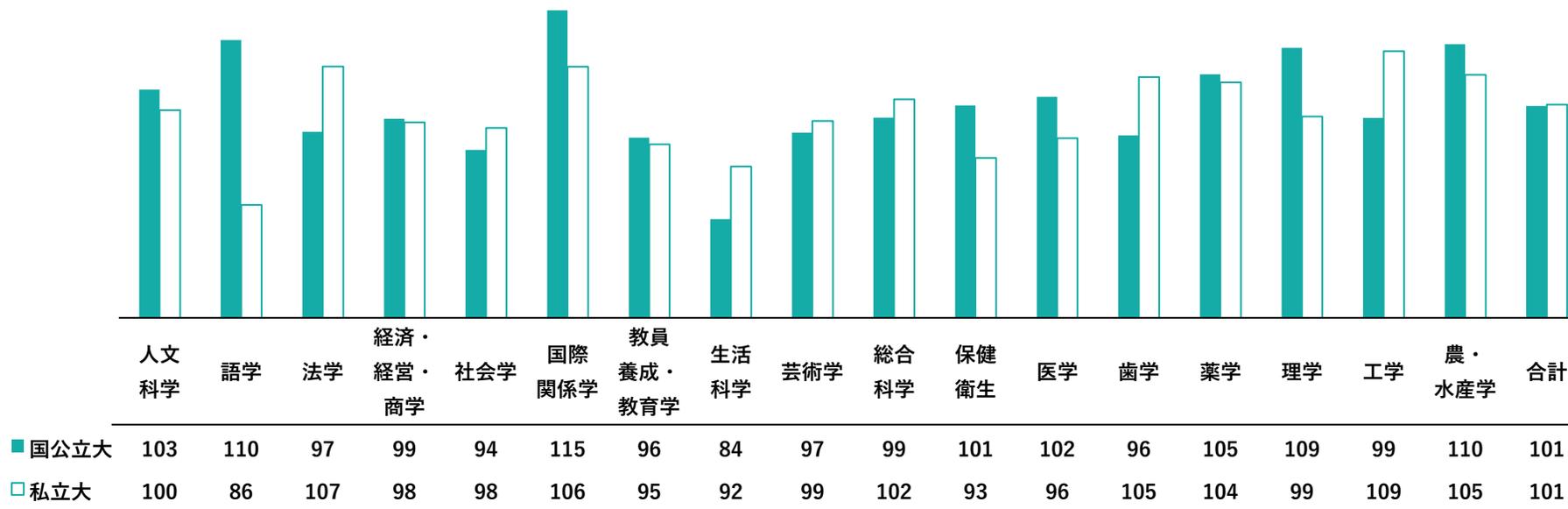


国公立大・私立大ともに理系人気の傾向がみられる

国公立大の志願者数をみると、語学系統、国際関係学系統、薬学系統、理学系統、農・水産学系統などで増加が目立っている。コロナ禍の入試で減少傾向が続いていた語学系統、国際関係学系統では人気の回復傾向がみられたが、コロナ禍以前の水準までは戻っていない。また、医療系の人気は継続しており、薬学系統は2年連続の増加となった。医学系統でも志願者数が対前年指数102と増加に転じた。共通テストの導入などによる安全志向が弱まり、難関大の志願者数が増加したことも影響しているとみられる。農・水産学系統は今年度は志願者数が増加したが、近年、志願者数の減少が続いており、長期的にみれば人気傾向とはいえない。

私立大の志願者数をみると、法学系統、国際関係学系統、歯学系統、薬学系統、工学系統、農・水産学系統などで増加が目立っている。法学系統では模試動向段階から人気傾向がみられていたが、実際の出願でも志願者数の増加が目立った。私立大全体の志願者数は対前年指数101とやや増加しているが、主に理系の学部系統での志願者増加によるものが大きい。

学部系統別の志願状況（一般選抜）



* 志願者、募集人員の数値は前年の志願者数、募集人員を100とした際の指数。
* 弊社調べ。5月中旬までに確認した情報をもとに集計。



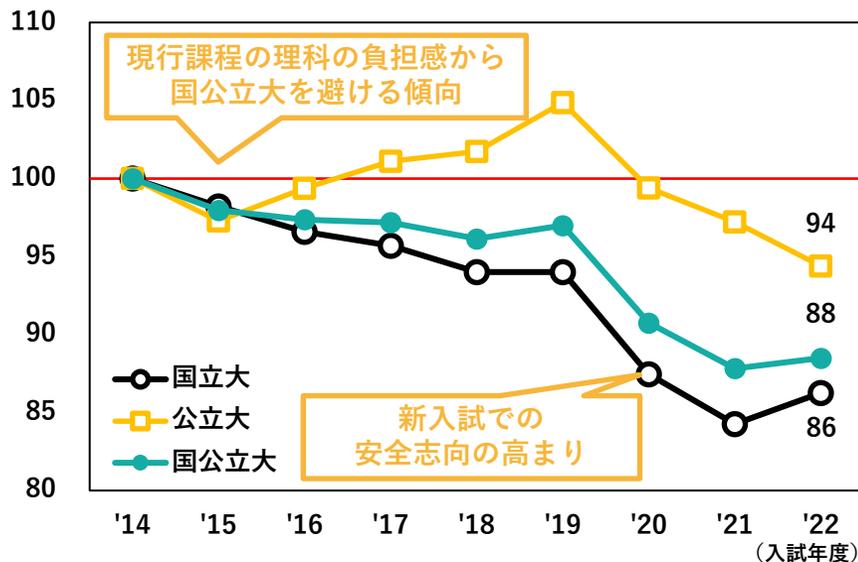
国立大の志願者数は 下げ止まりをみせる

2015年度入試から、数学・理科が先行して現行課程での実施となったが、理科の負担感の大きさから国立大を避ける傾向がみられはじめ、長らく国立大の志願者数の減少が続いてきた。さらに2021年度入試での共通テストの導入を機に、その前年および当年度には安全志向の高まりから国公立大の志願者数は大きく減少した。

しかし、直近の2022年度入試では国公立大の志願者数は対前年指数101と増加に転じた。これは共通テスト導入による安全志向が緩和された結果とみられ、長期的には減少傾向に変化はないものと考えられる。

国公立大の一般選抜の志願者推移

(対'14指数)



*各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。

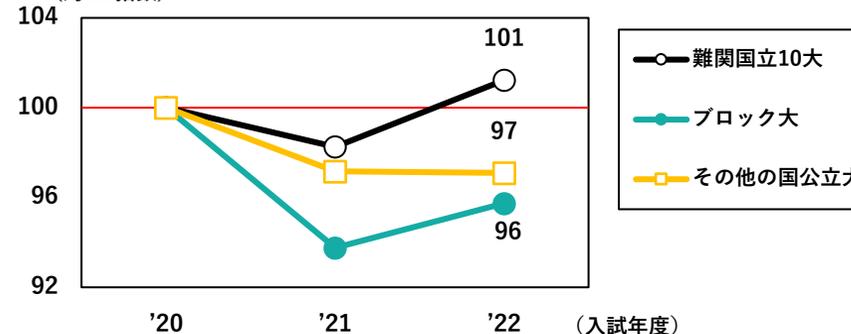


難関国立10大やブロック大では 安全志向の緩和がみられる

全体的には志願者数の減少が続く国公立大であるが、難関大においては安定した入試が展開されている。大学群別の志願者数の推移をみると、難関国立10大、ブロック大では対前年で志願者数が増加しているが、その他の国公立大では前年並となった。特に難関国立10大では共通テストが導入された2021年度入試における全体的な志願者数の減少の揺り戻しが顕著にみられ、志願者数は2020年度入試の水準まで戻っている。

大学群別の志願者数の変化

(対'20指数)



志願者数	'20	'21	'22
難関国立10大	68,810	67,613	69,654
ブロック大	71,632	67,162	68,580
その他の国公立大	299,123	290,640	290,423

*各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。

*ブロック大の21年度以前の値は、大阪市立大と大阪府立大のものを含む。



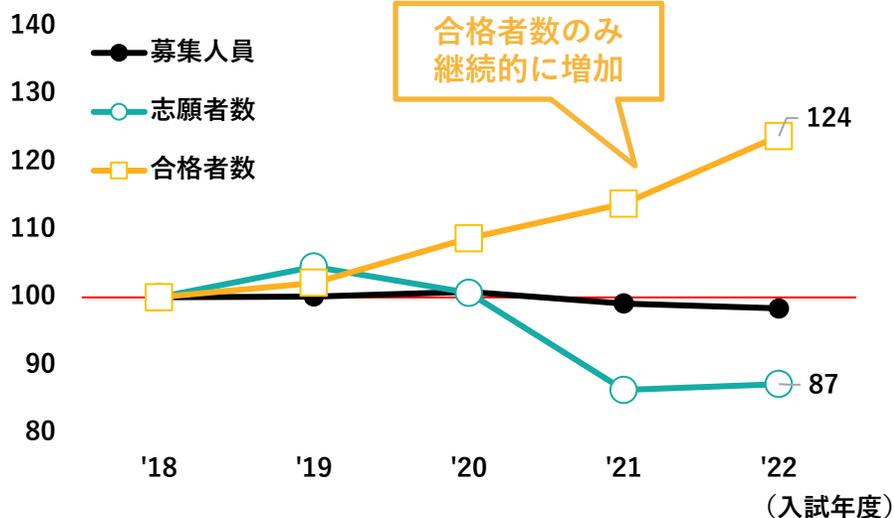
私立大全体の志願者数は下げ止まる 一方で合格者数は増加

私立大の志願者数は2020年度入試、2021年度入試と2年連続で大幅な減少が続いていたが、2022年度入試では対前年指数101と下げ止まりをみせた。一方で、合格者数は増加傾向が続き、実質倍率が低下した大学が多くみられる点も特徴的である。

入試方式別にみると、一般方式、共通テスト利用方式ともに合格者の増加と実質倍率の低下が目立っている。また、学校推薦型選抜でも同様の傾向がみられる。二次二期においては志願者数、合格者数がともに減少しており、国公立大の後期日程と同様に最後まで受験を続ける受験生は少なくなっているものと考えられる。

私立大の一般選抜の志願者数の推移

(対'18指数)

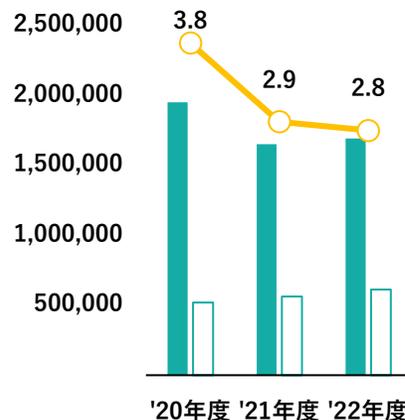


*各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。

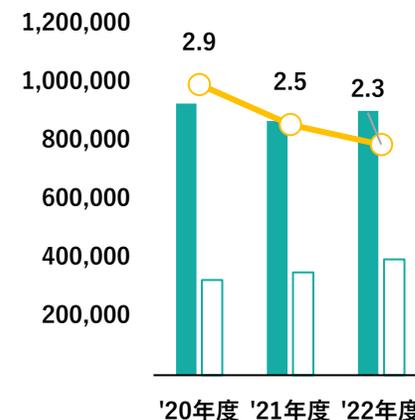
入試方式別の志願者数の推移

■ 受験者数 □ 合格者数 ○ 実質倍率

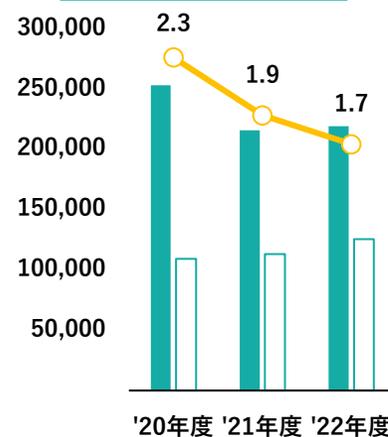
一般方式



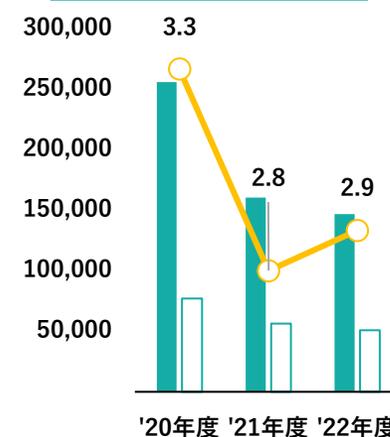
共通テスト方式



学校推薦型選抜



二次二期



*各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。

*二次二期は共通テスト利用方式を含まない。

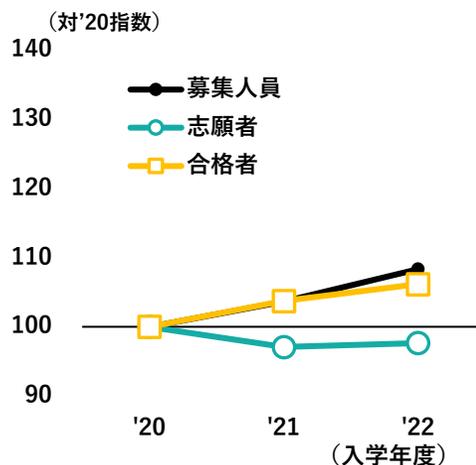


学校推薦型・総合型選抜の合格者数が増加

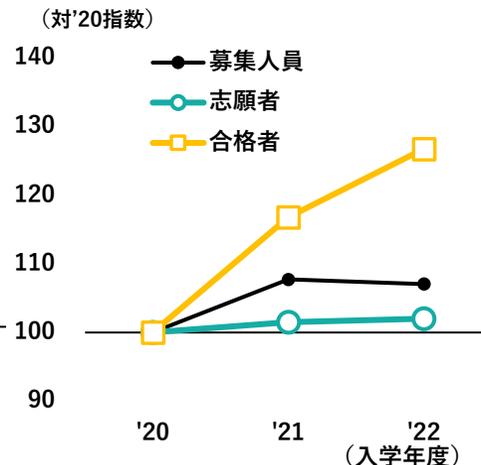
近年、国公立大、私立大ともに学校推薦型・総合型選抜の拡大が続いている。2021年度入試では国公立大では20.8%、私立大では58.2%が学校推薦型・総合型選抜での入学者となっている。2022年度入試でも国公立大の合格者数は増加しており、さらに入学者に占める比率は上昇するとみられる。

学校推薦型・総合型選抜の入試概況

国公立大

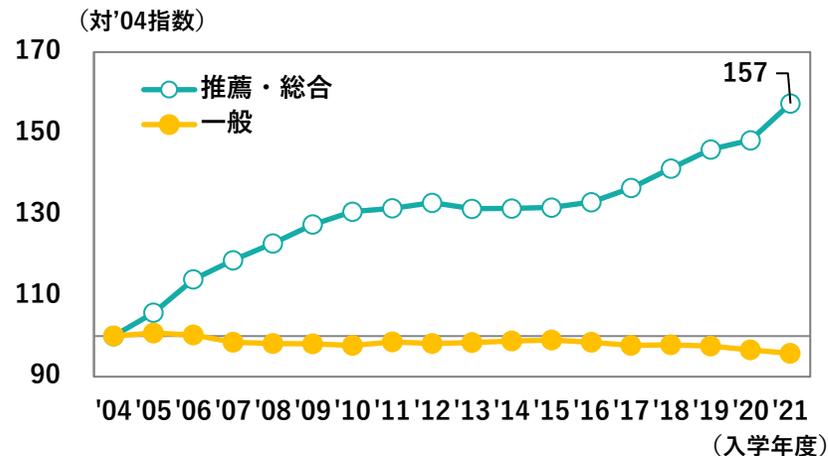


私立大



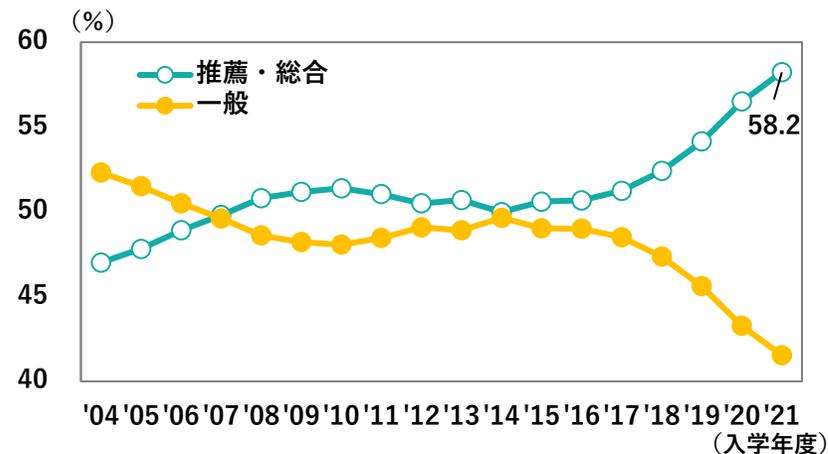
*各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。

国公立大の学校推薦型・総合型選抜の入学者数の推移



*文部科学省公表資料をもとに作成。

私立大の学校推薦型・総合型選抜の入学者数の推移



*文部科学省公表資料をもとに作成。

進路達成プログラムご活用のご紹介

※進路達成プログラムをご実施頂き、
生徒の変容を可視化するモニター企画を検討しております。

※進路達成プログラムは無料です。

「自分にあった進路の選び方」を、 “デジタル”と、“紙”を活用し、“**体験的**”に学ぶプログラム

ガイダンス



ガイダンス動画で
進路学習の
意味や目的を確認。
プログラム受講の第一歩に

自分を知る



「エンゲージメント診断」を
軸にしたワークで
自分の強み・こだわりを知る

自分軸をつくる



大学や専門学校パンフレットを
比較研究するワークで
進路選択の自分軸をつくる

「じぶんごと」に



自分で考えた進路を宣言書で
自分のコトバにすることで、
進路を「じぶんごと」化する

自分にあった進路の選び方を、体験的に学ぶプログラムで 進路を選択する上での自分軸をつくる

自分を知る

自分軸をつくる

「じぶんごと」にする

受講 ガイダンス



ガイダンス動画でこれから行う学習の全体像と意義・ゴールを確認でき、進路学習の初めの一步を自分で踏み出せる。

STEP 1

エンゲージメント 診断受検



エンゲージメント診断の受検で、すぐに自分が大切にしていることと、進路先とのつながりがわかる。

STEP 2

自分軸作成 ワーク



ワークを通して自分が進路選択において大切にしている自分軸をつくり、その軸をもとにした進路検討ができる。

STEP 3

希望進路宣言 ワーク



自分で考え、研究して固めた進路を書いて宣言することで、自分の進路に「こだわり」をもつ。

WEB上で エンゲージメント診断受検



大学・短大
希望コース

4 診断結果確認

3 あなたのこだわり

アンケート結果をもとに、あなたのこだわりを示しています。
志望理由を考えるときの材料にしよう!

あなたが大切にしている力・意識

知識・技能

1 外国語活用力 2 幅広い教養

3 デジタル活用力

生徒の大切にしている
意識や行動を可視化
これまでや今を振り返る質問
に回答することで、自分が
大切にしていること知り、こ
わりに気づく

大学・短大
希望コース

4 診断結果確認

4 志望校・マッチング

志望校とあなたのこだわりがマッチして
いるか確認してみましょう!

マッチング
している項目 意識して
ほしい項目

1~2件/4件

志望校① 志望校②

○○大学 ○○大学
航空宇宙工 情報メディア

志望校が重視する力・意識

知識・技能

高校教科知識 高校教科知識
読解力 外国語活用力
情報活用力 情報活用力

志望校と、大切にしてい
る意識・行動・環境との
つながりを可視化
志望校へのこだわりを再確
認・再検討するきっかけに

大学・短大
希望コース

4 診断結果確認

4 高マッチング大学

あなたの進路のこだわりにあつ大学・短大を紹介するよ
参考に見てみよう

マッチング
している項目 意識して
ほしい項目

●●大学 ●●大学
○○○学部 ○○○学部

学校が大切にする意識・行動

知識・技能

専門的な知識 幅広い教養
高校教科知識 外国語活用
情報分析・活用

思考・判断・表現

他者との対話 課題発見と解決
プレゼン 状況把握と判断
他者との対話

希望進路先以外の大学か
ら、つながりの強い大学
を提示
自分の大切にしていること
と進路先の求める生徒像と
のつながりが強い大学を知
り、可能性を広げる

エンゲージメント診断結果をもとに、 進路達成プログラム上で パンフレットを取り寄せ

志望校のパンフレットを比較して進路先研究をしよう

志望校のパンフレットに「大切」「いいな」と思って印をつけた箇所を抜き出して記入しよう。
自分の力・意識が生かせそうな大学だと思ったら☑をつけ、自分の進路のこだわりポイントの☆印を塗りつぶそう。



	キミのこだわり ポイントの☆を 塗りつぶそう	大学を比較するうえでのポイント	大学・学部			
			大学・学部	大学・学部	大学・学部	大学・学部
	☆	p.11で認識した、あなたが大切にしている力・意識 () () が 生かせる場合は、☑をつけよう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学問内容	☆	学ぶ内容・学び方	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <p style="color: red; font-weight: bold; text-align: center;">パンフレットを 教材にワーク</p> <p style="color: blue; font-weight: bold; text-align: center;">複数の大学を比較・研究 多様な観点で大学を整理し比較する ことで、自分が重視したい項目 を知り、「こだわり」を精査する</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="color: blue; font-weight: bold; text-align: center;">進路選択の「自分軸」を 固める</p> </div>			
	☆	資格				
	☆	就職状況				
入学関連	☆	大学受験の方法				
	☆	費用・奨学金				
学生生活	☆	魅力ある施設				
	☆	生活スケジュール、サークル・ 大学の雰囲気				
	☆	キャンパスの場所・ アクセス、大学の規模				

このワークを通して感じた、志望校を選ぶうえで大事にするポイントをWebに入力しよう



希望進路を宣言

自分の言葉で宣言することで
自問自答しながら本気度を強める機会に

令和 年 月 日

私の希望進路宣言

年 組 番 氏名

今回のワークを通して下記の大学・短大を第1志望として考えます。

大学・短大 学部 学科

志望理由

① あなたの強みや長所、それを裏付けるエピソードや経験

② 強みを生かして、将来どのように活躍したいか

③ ①のために大学・短大では何を学びたいか

④ 志望を実現するために、これからの高校生活で何に意識して取り組みたいか



志望理由書の原案として
活用できる

希望進路への想いを言葉に
することで、進路を「じぶん
ごと」にし、3年次の志望理由
書作成のたたき台とする

宣言を通して進路を
仮決定する

志望を宣言することで、
進路先の仮決定をし、
主体的な学習や進路対策を
始めるきっかけにする

先生はCompassで
結果をご確認いただけます。

Compassにて、生徒のワーク取り組み状況をリアルタイムで確認できます。また、プログラムのまとめとしての希望進路宣言書を閲覧できます。

「Compass」とは？

ベネッセのテスト結果やポートフォリオの記録情報など、生徒の状況を多面的に把握し、高校3年間を通じて生徒個人の可能性を広げる進路指導ツールです。*ご利用にはBenesse High School Onlineの先生個人IDの登録が必要です(登録・利用は無料)。



氏名	学年	進路宣言	進路宣言日	進路宣言内容	進路宣言状況
1	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
2	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
3	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
4	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
5	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
6	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
7	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
8	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
9	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了
10	3	F2' 950	2024/11/19	大学進学	完了

アイコンをクリックすると、
宣言書がポップアップ表示。



*掲載の画面イメージは全て開発中のものであり、今後変更になる可能性があります。

 希望進路宣言はWebにも入力しよう